WinGate 8

スタートアップガイド

発売元　Qbik New Zealand Limited

WinGate に関する最新情報は以下のサイトをご覧ください。

http://www. wingate.jp/　（日本語）

TechnoBlest

目次

はじめに **4**
WinGate について **5**
試用版について **6**
試用版グレードの変更について 6
WinGate8 の代表的なインターフェース **7**
WinGate で取得可能なログ 8
WinGate 必要条件 **9**
WinGate のライセンスについて **9**
WinGate の種類による機能の違い **10**
WinGate の主な機能とその概要 **11**
サービス機能 11
プロキシ・サービス機能 12
その他の機能 13
WinGate をインストールする前に（重要） **14**
WinGate のインストール **16**
WinGate のアンインストール **22**
インストール完了後に行う内容 **24**
ライセンスアクティベーション 24
ユーザーデーターベースの選択 31
WinGate user database engine を指定した場合の Administrator パスワードの設定方法 **36**
インストール完了後に確認する内容（重要） **37**
デフォルトで構成されているサービス、サーバー機能 37
ネットワーク接続の確認（重要） 37
ログ取得内容の確認（重要） 39
ログのクリーンナップ 40
DNS Client（DNS クライアント）設定の確認 41
Notifications（通知） 42
使用しない機能の停止 45
WinGate 設定例 **46**
クライアント PC から WWW Proxy Server を使用して Web サイトを参照 46
WinGate のプロキシ機能を使用してメールの送受信を行う（POP3 Proxy、TCP Mapping） 48
Extended Networking（拡張ネットワーク）の NAT を使用する方法 53
WinGate 設定情報の保存と復元 **55**
WinGate のアクティベーションについて **59**
ハードウェア、OS トラブル時などの WinGate アクティベーション情報の解除 59
通常のメンテナンス **60**
トラブルシューティング **61**
WWW Proxy を使用して Web サイトが表示できない 61
WinGate のパフォーマンスに関するトラブルシューティング 62

Extended Networking の無効化 64
アップグレード保証期間の確認 65
アップグレード保証更新、Kaspersky AntiVirus for WinGate の購読期限更新の適用 65
お問い合わせに関して....68

はじめに

この度は WinGate をご使用いただき、誠にありがとうございます。
WinGateは現在ご使用いただいております環境にインストールいただく事により、インターネット・ゲートウェイ・サーバ、プロキシサーバー、またメールサーバーとして動作するように自動的に構成されますが、WinGate は多くの機能を持っており、WinGateをご利用目的に合わせてご利用いただくためには、ネットワーク環境や使用環境に合わせて、より適切な設定を行っていただく必要があります。
WinGate のインストールを行う前に、WinGate の機能や設定内容をご理解いただく事により、より円滑に WinGate をご使用いただくことができます。

本書は、WinGate ユーザーガイドから抜粋し、新規インストールから基本的な使用開始までを記述しております。
また、本書は、WinGate8.x（WinGate8.2 以降）を対象としております。
より詳細な設定や既存グレードからのアップグレードに関しましては、WinGate ユーザーガイドをご参照ください。
（一部 WinGate7.x の画面などがございますことをご了承ください。）

WinGate8 をご使用いただく際に、本書をお役立ていただけると幸いです。

WinGate の最新情報については、http://www.wingate.jp/ をご参照ください。

ご注意

1. 本書の内容は将来予告なしに変更する事があります。
2. 本ソフトウェア、及び本書を運用いただき生じた結果につきましては、一切の責任を負いかねますことをご了承ください。

著作権

Copyright © 2015 TechnoBlest Inc. All Rights Reserved.
Copyright © 2015 Qbik New Zealand Limited
このマニュアルの一部、または全てを許可なく複写する事はできません。

商標

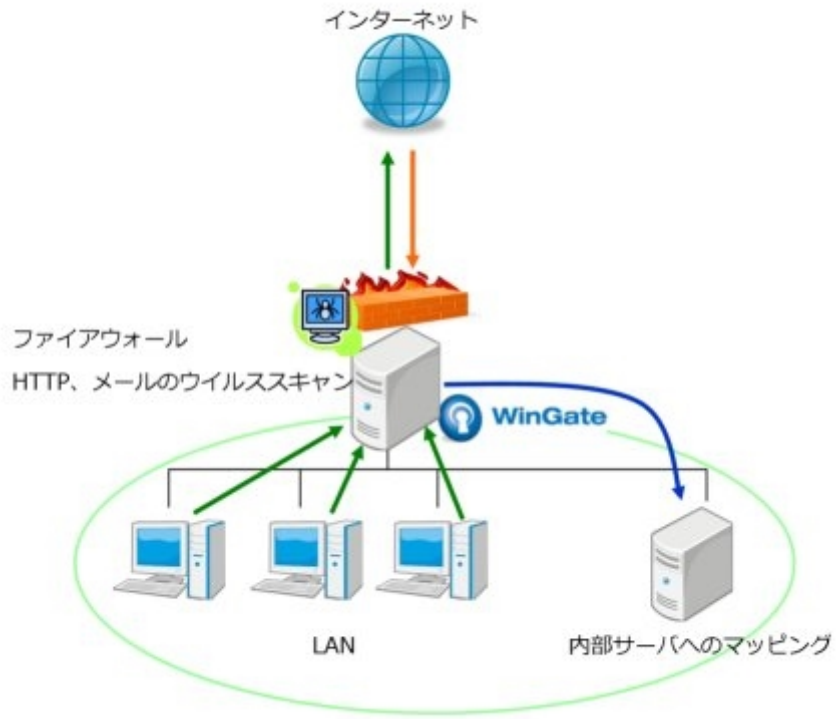
Windows は米国 Microsoft 社の登録商標です。その他、記載されている会社名、製品名等は各社の登録商標、または商標です。

WinGate について

WinGate はインターネット・ゲートウェイとして構成可能な Windows 用統合型プロキシサーバ・ソフトウェアです。
プロキシサーバーとしての動作をはじめ、多くの機能を使用してインターネットの共有接続を提供いたします。
WinGate の主な機能は以下の通りです。

- ◆ プロキシ、NAT、WinGate インターネット・クライアントによる、インターネット接続の共有
- ◆ WinGate VPN による VPN（ヴァーチャル・プライベート・ネットワーク）のサポート
- ◆ ファイアウォール機能によるネットワークの保護
- ◆ 強力なポリシー機能によるアクセス制限
- ◆ ログファイル、アクティビティ、タイムラインによるユーザーの監視・管理
- ◆ WinGate メールによるメールサーバーの統合（POP3 サーバー、SMTP サーバー、IMAP4 サーバー）

このように WinGate は多くの機能をもっており、全ての機能を同時に使用することが可能です。



WinGate は Windows のシステムサービスとして動作する WinGate エンジンと設定や管理を行う管理ツールである WinGate マネージメントに分かれます。WinGate の動作は、タスクトレイに表示される WinGate エンジンアイコンで確認することができます。

試用版について

WinGate は、試用版として 30 日間、全ての機能をご利用いただくことができます。(ご検討をいただいております種類に合わせて、試用版の種類を変更いただくこともできます。)

弊社では、WinGate をご購入いただく前に、試用版にて設定や動作をご確認いただくことをお願いしております。

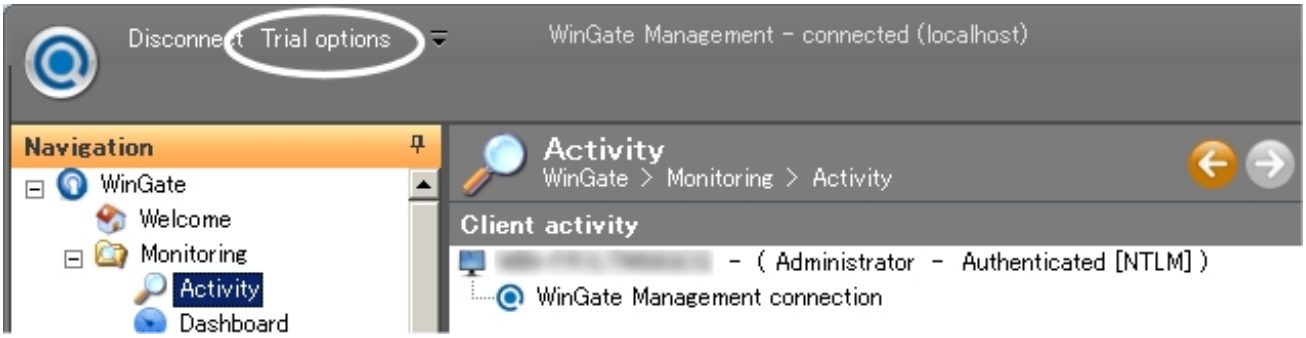
(試用期間の情報は、WinGate Management 内の Licensing より確認いただく事ができます。)

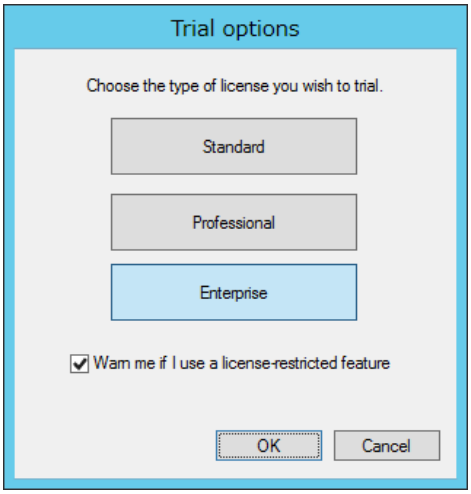
試用版グレードの変更について

Trial options(試用版オプション)により試用版として利用する WinGate の種類を選択することができます。

これにより、検討いただいております WinGate の種類と同じ動作を試用版でお試しいただけます。

試用版グレードの変更は、WinGate Management へログインした状態でダイアログ左上にございます Trial Options より変更いただけます。





オプション:Warn me if I use a License-restricted feature(ライセンスによって制限される機能を使用した場合に警告)

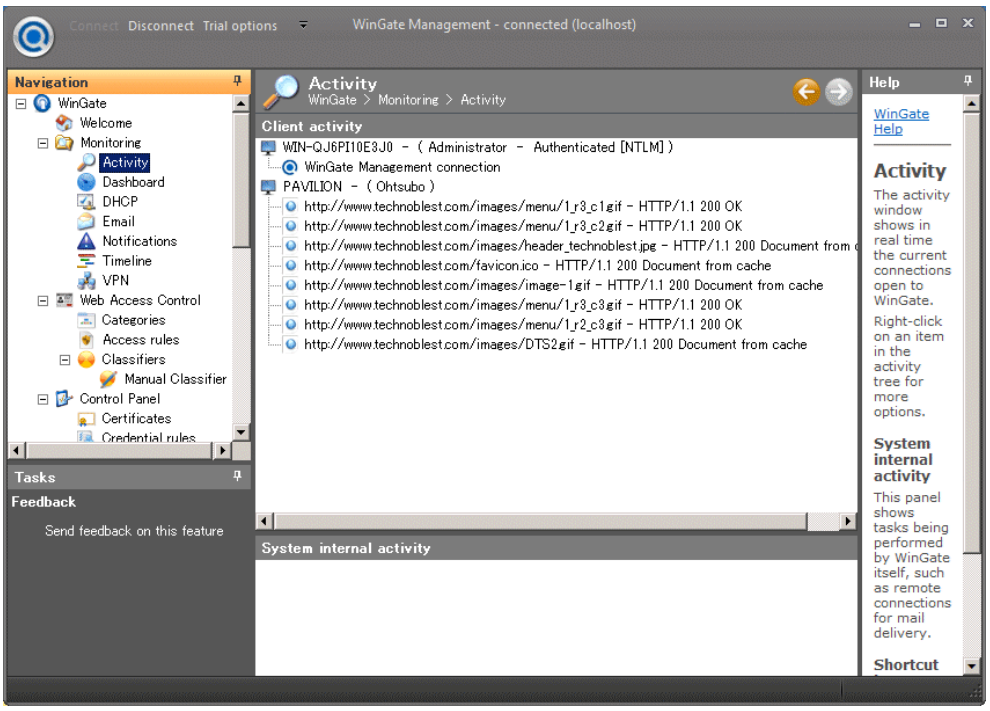
WinGate のグレードを変更した場合、WinGate の再起動が必要となります。

変更をしない場合、 Enterprise 版として動作します。

WinGate8 の代表的なインターフェース

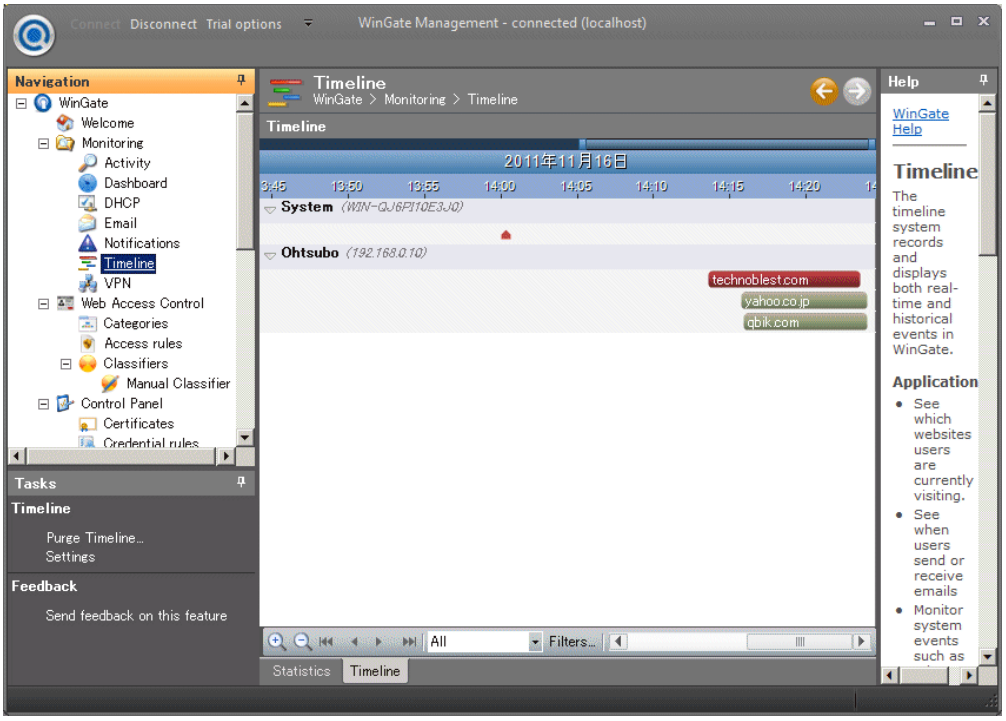
WinGate マネージメント（WinGate Management）

アクティビティ（Activity）



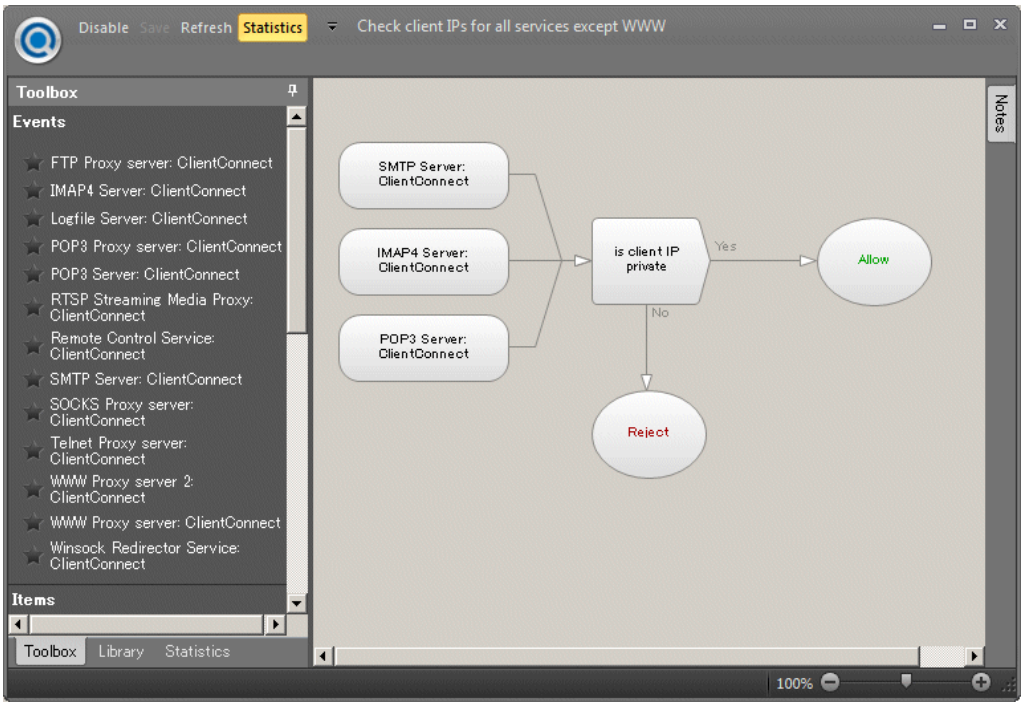
Activity スクリーンには、WinGate を利用するクライアントマシンの状況がリアルタイムに表示されます。マシンやセッションを右クリックいただくことによりクライアントの詳細や切断などを行うことも可能となります。

タイムライン（Timeline）



Timeline は、WWW Proxy server で接続されたドメインをユーザー毎に簡易的にグラフ表示します。クライアントの WWW Proxy server 利用状況を簡易的に把握することができます。

ポリシー・システム



WinGtae7 から刷新されたポリシー システムは、フローチャートによるポリシー設定が可能となりました。これにより、より詳細なポリシー設定が可能となりました。また、ポリシーの利用状況も簡易的に表示されます。

WinGate で取得可能なログ

WinGate8 では、サービス毎のログ（診断ログ）とは別に WWW Proxy Server、WinGate NAT、SMTP deriver Service などの Usage（使用）ログを W3C 形式（Standard 版では利用できません）でログを取得することができます。WWW Proxy Server の Usage ログはデフォルトで、以下の様なログを取得いたします。

#Software: WinGate Format Id: {5092B986-E5E7-4A2C-8486-CA43E684D5C6} Format Name: W3C Logger Format
#Version: 2.0
#Date: 2011-12-21 17:41:15
#Fields: date time cs-username session-id time-taken c-ip c-agent s-ip cs-method cs-uri cs-uri-query sc-status cs-bytes sc-bytes cs-protocol cs(Referer)
#Remark: TimeZone: +00:00 FieldInfo: [WinGate.Class.HTTPSession] (5,Date) (6,Time) (4,User Account) (2,Session ID) (2,Time Taken) (4,Client IP) (4,User Agent) (4,Server IP) (4,HTTP Method) (4,URL) (4,URL Query) (2,HTTP Status) (2,CS Bytes) (2,SC Bytes) (4,CS Protocol) (4,CS Header %s)
2011-12-21 08:41:15 unknown 2 0 192.168.0.10 "Mozilla/5.0 (compatible; MSIE 9.0; Windows NT 6.1; Trident/5.0)"192.168.0.23 GET http://www.technoblest.com/ - 304 588 235 http -
2011-12-21 08:41:15 unknown 2 0 192.168.0.10 "Mozilla/5.0 (compatible; MSIE 9.0; Windows NT 6.1; Trident/5.0)"192.168.0.23 GET http://www.technoblest.com/tb.css - 304 602 234 http http://www.technoblest.com/

ログの取得項目は、設定により変更いただくことができます。

WinGate 必要条件

最小システム必要条件

- CPU： 1GHz 以上のプロセッサ(2GHz 以上を推奨)

- メモリ： 4GB 以上の RAM（Kaspersky AntiVirus for WinGate を使用する場合は 8GB 以上を推奨）

- オペレーションシステム（OS）： Windows 2003、2008、7、8、Windows Server 2012（R2 を含む）
  ※サーバーOS での使用を強く推奨いたします。
  （Windows8、および Windows Server 2012 は、WinGate7.3 以降で対応）
  ※64bit OS 環境では、32bit アプリケーションとして動作いたします。
  ※OS が持つ機能は、その OS が持つ設定や制限に準じます。
  ※仮想マシン環境での動作に関しましては、VMware、Hyper-V などで動作を確認しておりますが、サポートは、WinGate に関する内容のみの対応となります。仮想マシン環境固有の問題に関しましては対応させていただくことができません。
  ※Windows Server 2012 では、Windows の ECN 機能の影響をうける場合がございます。

- 利用可能な TCP/IP ネットワーク （※NIC チーミングをサポートしておりません。）
- 利用可能なインターネット接続

※WinGate インターネットクライアント（WGIC）は Windows Vista、2008、7、8、2012 に対応しておりません。
（WGIC は、WinGate の Winsock redirector Service を使用する接続のみで使用され、WGIC を使用しない場合でも NAT やプロキシは使用いただくことができます。）

WinGate は、32bit アプリケーションとして動作いたしますが、より大規模なユーザー環境では、より高性能な CPU、大きいメモリを搭載いただくことで、より高速な環境を実現することができます。
また、より高速なハードディスク環境は、WinGate のキャッシュレスポンスを、より高速化いたします。

WinGate は、ログの保存、キャッシュ情報の保存などに HDD 容量を使用いたします。
使用される容量は、WinGate のご利用状況などにより異なりますので、試用版などをご利用いただき、実際のサイズをご確認ください。

WinGate のライセンスについて

WinGate のライセンスは、構成される 1 つの WinGate 毎に必要となります。仮想 OS 環境などで複数の WinGate を同時に起動する場合、その OS で構成される WinGate 毎にライセンスが必要となります。（2 つの WinGate を使用する場合、WinGate を 2 本ご購入いただく必要があります。）
WinGate のユーザー数は、同時接続数となり、ユーザー数を超える接続があった場合、WWW Proxy server では、接続数を超えたクライアントからブラウザに英文で使用できないことを示すメッセージが表示され、Web サイトの参照などを行うことができません。他のサービスでは、ユーザー数を超える接続があった場合、リクエストは WinGate により切断されます。
弊社では、WinGate を使用する可能性のある台数のユーザー数をご購入いただくことをお勧めしておりますが、使用状況などから WinGate を使用する同時接続数が WinGate を利用するクライアント台数未満でも、ご利用いただくことができます。（ユーザー数を超える接続があった場合、新たなクライアントは、他のクライアントの接続が終了し、ユーザー数未満になるまで WinGate を利用できません。）

新規購入いただきました WinGate のライセンスには、1 年間のアップグレード保証が含まれます。アップグレード保証には、開発元がアップグレード保証の期間内であることを必要とする最新バージョンをリリースした際に最新バージョンにアップグレードできる権利、および弊社技術サポートが含まれます。
アップグレード保証の有効期限は、WinGate Management の Licensing（ライセンス）より確認いただくことができます。
アップグレード保証の更新は、有償にて承ることができます。アップグレード保証更新については、弊社までお問い合わせください。

WinGate の種類による機能の違い

WinGate はご利用目的に合わせて 3 種類のグレードをご用意しております。
それぞれ以下の違いを持ちます。
お客様の使用用途に合わせて、WinGate の種類をお選びください。
また、試用版では、使用する種類を選択することができます。（試用版インストール直後は、Enterprise 版 無制限ユーザーとして動作いたします。）

Standard 版	**Professional 版**	**Enterprise 版**
Dashboards: 1 ダッシュボードの数：1	Dashboards: 2 ダッシュボードの数：2	Dashboards: 無制限 ダッシュボードの数：無制限
Notification plans: 1 通知プランの数：1	Notification plans: 2 通知プランの数：2	Notification plans: 無制限 通知プランの数：無制限
Cache volumes: 1 キャッシュボリューム数：1	Cache volumes: 1 キャッシュボリューム数：1	Cache volumes: 無制限 キャッシュボリューム数：無制限
Mailbox volumes: 1 メールボックスのボリューム数：1	Mailbox volumes: 1 メールボックスのボリューム数：1	Mailbox volumes: 無制限 メールボックスのボリューム数：無制限
	Active Directory support アクティブディレクトリをサポート	Active Directory support アクティブディレクトリをサポート
	W3C usage logging W3C 形式でのログ	W3C usage logging W3C 形式でのログ
	Scripting support (Lua / JScript) スクリプトサポート	Scripting support (Lua / JScript) スクリプトサポート
	Use files in data lists データリストのファイル参照	Use files in data lists データリストのファイル参照
	Bandwidth Control 帯域幅制御	Bandwidth Control 帯域幅制御
	DMZ	DMZ
		HTTP キャッシュルール
		HTTPS インセプション
		VPN
		Threshold checking in monitored data モニターされたデーターによるスレッショルドチェック
		Custom DHCP options カスタム DHCP オプション
		Web-based Administration Web ベースの管理
		Remote shell リモートシェル
		Performance counters パフォーマンス・カウンター
		Advanced policy items 詳細ポリシーアイテム
		Advanced WinGate events 詳細 WinGate イベント
		Advanced Schema objects 詳細スキームオブジェクト
		Advanced adapter settings 詳細アダプタ設定

WinGate の主な機能とその概要

WinGate は以下のサービスを持ちます。

「デフォルトインストール」の記載があるものは、インストール直後にデフォルトでインストールされ開始されます。それ以外の項目は必要に応じて、手動で追加・設定を行ってください。

サービス機能

◆ DHCP Service （デフォルトポート:67　変更不可）

DHCP サービスは、WinGate を DHCP サーバーとして動作させるサービスです。このサービスが有効となっている場合、WinGate は、設定可能な DHCP サーバーとして動作します。WinGate の DHCP Service を利用する事によりマシン名を WinGate 内で利用する事が可能となります。

◆ Winsock Redirect Service （デフォルトポート:2080）

Winsock リダイレクトサービスは、WinGate インターネットクライアント（WGIC）により使用されます。クライアント PC で WGIC が使用される場合、接続は Winsock リダイレクトサービスで受け付けられます。

◆ GDP Service（デフォルトポート:368　変更不可）

GDP サービスは、WGIC が WinGate サーバーを発見するために使用されます。

◆ DNS Service（デフォルトポート:53　変更不可）

クライアントマシンへ DNS サーバーの機能を提供します。レコードなどを持つことはできません。名前解決は WinGate マシンの TCP/IP 設定で設定された DNS サーバー、または DNS リゾルバ設定により設定された DNS サーバーが使用されます。（DNS プロキシのような機能となります。）

◆ Remote control Service（デフォルトポート:808） **[デフォルトインストール]**

リモート・コントロールサービスは、WinGate マネージメントが WinGate サーバーにログインするために使用されます。このサービスが停止された場合、WinGate マネージメントは自身の、またはリモートの WinGate へログインすることはできません。

◆ SMTP delivery service **[デフォルトインストール ・削除不可]**

WinGate から電子メールを送信する場合に使用されるサービスです。

◆ Performance Counters **[デフォルトインストール ・削除不可]**

パフォーマンス・カウンターで使用される情報を収集します。一時停止（Pause）をした場合、これらの情報は収集されません。

◆ Web Admin service **[デフォルトインストール ・削除不可]**

ブラウザベースで WinGate の管理を行う場合に使用されるサービスとなります。

◆ Scheduler**[デフォルトインストール ・削除不可]**

スケジュール・イベントを実行するために使用されます。一時停止（Pause）をした場合、スケジュール・イベントは実行されません。

◆ POP3 Server（デフォルトポート：110）
WinGate のメールサーバー機能の POP3 Server となります。
※POP3 Proxy Server とは異なります。

◆ SMTP Server（デフォルトポート：25）
WinGate のメールサーバー機能の SMTP Server となります。
※SMTP Proxy Server とは異なります。

◆ IMAP4 Server（デフォルトポート：143）
WinGate のメールサーバー機能の IMAP4 Server となります。

プロキシ・サービス機能

◆ FTP Proxy Service（デフォルトポート：21）
FTP プロキシサーバーとして動作します。

◆ POP3 Proxy Service（デフォルトポート：8110）
POP3 プロキシサーバーとして動作します。メールクライアントから利用するためには、メールクライアントでの区切り文字を使用したアカウント設定が必要となります。

◆ RTSP Proxy Service (デフォルトポート：554)
Real Time Streaming Protocol プロキシサーバーとして動作します。

◆ SOCKS Proxy Service（デフォルトポート：1080）
Socks プロキシサーバーとして動作します。対応する SOCKS バージョンは、4、5 となります。

◆ Telnet Proxy Service（デフォルトポート：23）
telnet プロキシサーバーとして動作します。

◆ VDOLive Proxy Service（デフォルトポート：7000）
VDOLive プロキシサーバーとして動作します。

◆ WWW Proxy Server（デフォルトポート：80） **[デフォルトインストール]**
WWW(HTTP) プロキシサーバーとして動作します。

◆ XDMA Proxy Service（デフォルトポート：8000）
XDMA プロキシサーバーとして動作します。

◆ TCP/UDP マッピング
TCP や UDP 接続を決められたサーバーへマッピングする場合に使用します。接続を受け付けるポートとマッピング先のサーバー、ポートを指定します。

その他の機能

◆ HTTP Cache（HTTP キャッシュ） **[デフォルトで有効　デフォルトキャッシュサイズ　1GB]**

キャッシュ機能は、WWW Proxy Server で参照された Web サイトの情報をキャッシュし、同じリクエストがあった場合に、キャッシュ内の情報を使用することにより高速表示とネットワークリソースの節約を行うことができます。キャッシュサイズやキャッシュの内容を設定することができます。

◆ Timeline（タイムライン）

WinGate の WWW Proxy Server で参照された URL、ダウンロードされたサイト、WinGate の起動などをグラフ表示します。

◆ Web アクセスコントロール

ポリシー設定は別に、お客様によって作成されたカテゴリー毎に、WWW Proxy Server でアクセスを許可、拒否するサイトなどの設定を行うことができます。また、制限の対象になったカウントの確認も可能となります。

◆ イベント

WinGate 内で発生するイベントにより様々なアクションを実行することができます。ルールに違反する挙動があった場合に電子メールを配信するといった事も可能となります。

◆ スケジュール・イベント

WinGate で行われる動作をスケジューリングすることができます。デフォルトでは、ログファイルのローテーション等がスケジューリングされています。この他にも WinGate の停止、開始などもスケジューリングできます。

◆ 拡張ネットワーキング（Extended Networking）

NAT、ファイアウォール、ポートセキュリティ、帯域幅制限など、Extended Networking ドライバーにより提供される機能の設定を行います。ポートセキュリティでは、WinGate マシンに対する接続をポート単位でどのように取り扱うかを制御することができます。

◆ VPN（エンタープライズ版、および VPN 購入ユーザー様のみ）

WinGate VPN の設定を行います。（他社 VPN との接続や他社 VPN 網内での挙動を制御するものではありません。）

◆ DNS クライアント

WinGate がインターネットアクセスを行う際に使用する DNS サーバーの設定や DNS キャッシュの設定などを行います。

◆ サーバー証明

WinGate で使用されるサーバー証明書の作成などを行います。

◆ WinGate アップデート

WinGate の自動更新の確認や自動更新の適用方法などを構成します。

WinGate をインストールする前に（重要）

WinGate は、NAT 機能、メールサーバー機能、プロキシ機能、ファイアウォール機能など、多くの機能を持っており、これらは同時に使用することが可能です。これらは非常に有効な機能ですが、お客様の環境によっては幾つかの機能は、不要であるかもしれません。また、不要な WinGate の機能が動作する事により、ネットワーク内での予期せぬ動作や意図しない WinGate の動作を行ってしまう場合もあります。WinGate のインストール前に以下の内容を確認し、目的に合わせたインストール、設定を行ってください。（これらはインストール後に変更することも可能となります。）

◆ **WinGate の Extended Networking 機能は必要とするか？（重要）**

Extended Networking は、Windows のシステムドライバとして動作し、NAT、ファイアウォール、ポートセキュリティの機能を提供します。

NIC が 2 枚の構成で、1 つが直接インターネットへ接続され、1 つが LAN 側の様な構成では、不要な外部接続から保護するためには、インストールが推奨されます。（NAT 機能のだけの無効化なども可能となります。）

一方で、LAN 内のプロキシサーバーとしてだけと使用する場合には、Extended Networking 機能を不要としないケーズがございます。単に LAN 内でプロキシサーバーとしてだけ WinGate を構成する場合には、Extended Networking 機能を使用しないことを推奨いたします。

ご利用をいただく WinGate の構成や機能に応じて、Extended Networking の有無を選択してください。

◆ **WinGate メールサーバー機能（POP3 Server , SMTP Server）は必要か？**

WinGate は、プロキシ機能と異なる、ドメイン、メールアカウントを構成可能なメールサーバー機能を持ちます。

重要：このメールサーバー機能は、プロキシ機能とは異なることにご注意ください。

WinGate をメールサーバーとして使用する必要がなく、POP3 プロキシ、SMTP プロキシを使用する場合は、WinGate インストール後に POP3 Server、SMTP Server 機能を追加いただく必要はありません。（両方が重複したポートで構成された場合、メールサーバー機能が優先されます。

◆ **その他に必要な WinGate の機能は何か？**

WinGate はメールサーバー機能の他にも、DHCP サービス、DNS サービスを持ちます。ネットワーク内や同一コンピュータに、これらのサーバサービスが既に使用されている場合は、サーバーが競合し意図しない動作を招く場合もあります。インストール前に、必要となる WinGate の機能をご確認ください。

◆ **ユーザーデーターベースは何を使用するか？**

WinGate インストール直後に WinGate で使用するユーザーデーターベースを選択いただく必要があります。

選択したユーザーデーターベースは、認証やメールアカウントなど使用することができます。

WinGate で使用できるユーザーデーターベース

Active Directly	※WinGate マシンは、Active Directly のメンバーである必要があります。
Windows ユーザー	
WinGate ユーザーデーターベース	

※ユーザーデーターベースは、WinGate の管理ツールである WinGate マネージメントへのログインにも使用されます。

◆ **WinGate サーバーPC のネットワーク環境の確認**

WinGate はインストール完了後に、ポートセキュリティ、バインドポリシーで使用される NIC の用途を自動で構成します。しかし、この自動構成がネットワーク構成の意図した設定に検出されない場合がございます。

インストール前に WinGate で NIC やゲートウェイがどのように使用されるべきであるかを、ご検討ください。

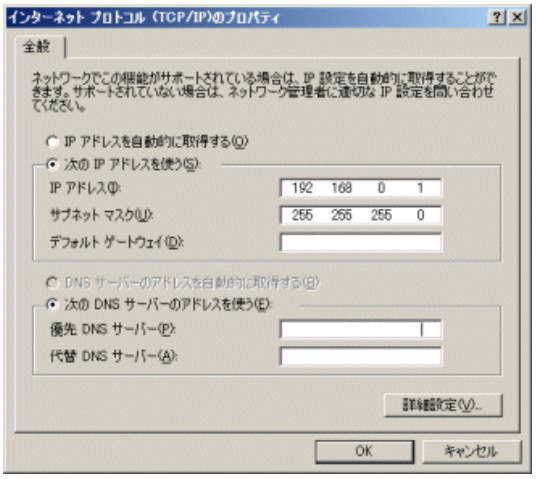
WinGate をインストールする前に目的にあったネットワークインターフェースの構成を行っていただく事により、より円滑にインストール作業を行っていただく事ができます。

インターネットへの接続環境、およびクライアントマシンからの接続を受け付けるインターフェースの設定が完了していることを確認してください。

クライアントからの接続を受け付けるインターフェースは、スタティック(静的)な IP アドレスが設定されていることが推奨されます。

Windows の TCP/IP の設定より事前に設定を行ってください。

Windows の TCP/IP 設定画面



※NIC が 2 枚の構成で、1 つの NIC2 がクライアントからの接続を受け付ける専用のインターフェースである場合、WinGate がゲートウェイとなるためこの例のようにデフォルトゲートウェイ、DNS サーバーを持つ必要はありません。一方でインターネットに接続される側に NIC は、確実にインターネットへ接続できる環境としてください。

※NIC が 1 枚の構成である場合、WinGate が接続を受け付ける NIC と WinGate がインターネットへアクセスするための NIC は同一の NIC で行われるため、インターネットへ接続できる設定としてください。(既にインターネットへの接続環境を持っている場合は、WinGate 用に変更の必要はありません。)

◆ **その他**

他社アンチウイルス製品をご利用いただく場合のご注意

WinGate をご利用いただいております PC を保護するためにアンチウイルス製品をご利用いただきます場合は、WinGate のインストールディレクトリをウイルススキャンの対象外としてください。(ログディレクトリやキャッシュディレクトリを WinGate のインストールディレクトリ以外に設定変更している場合は、それらのディレクトリも対象外としていただく事を強くお勧めいたします。)

WinGate が更新を行うログやキャッシュファイルへ正常にアクセスできない場合に、WinGate の動作に影響が出る場合がございます。

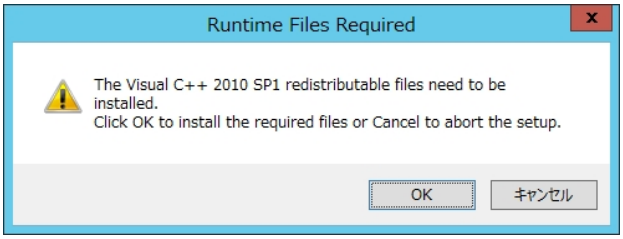
他社ファイアウォール、および Windows ファイアウォールを使用している場合のご注意

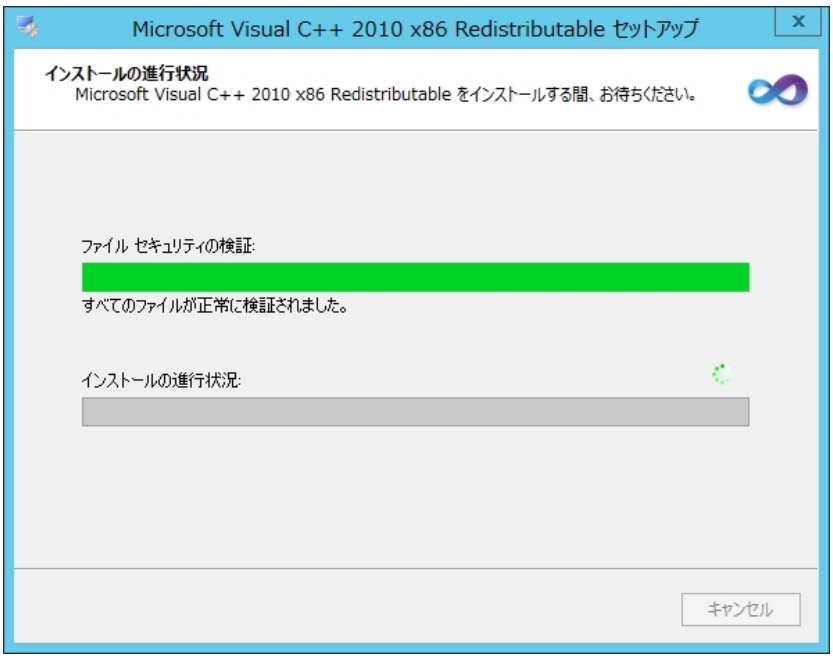
ファイアウォール製品を使用している場合、WinGate が接続を受け付けるために使用する IP アドレスやポートへの接続を許可するよう設定してください。

WinGate のインストール

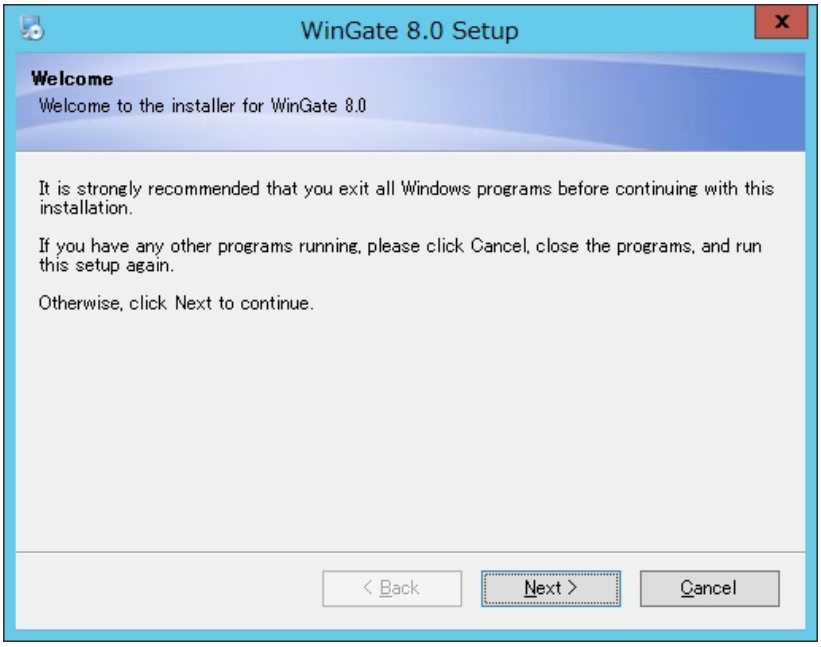
1. WinGate のインストールプログラムを実行します。

2. Windows Server 2012 などでは、環境によって Visual C++ 2010 SP1 再配布パッケージのインストールが必要となるダイアログが表示される場合があります。
   このダイアログが表示された場合、OK ボタンをクリックして Visual C++ 2010 SP1 再配布パッケージのインストールを行ってください。



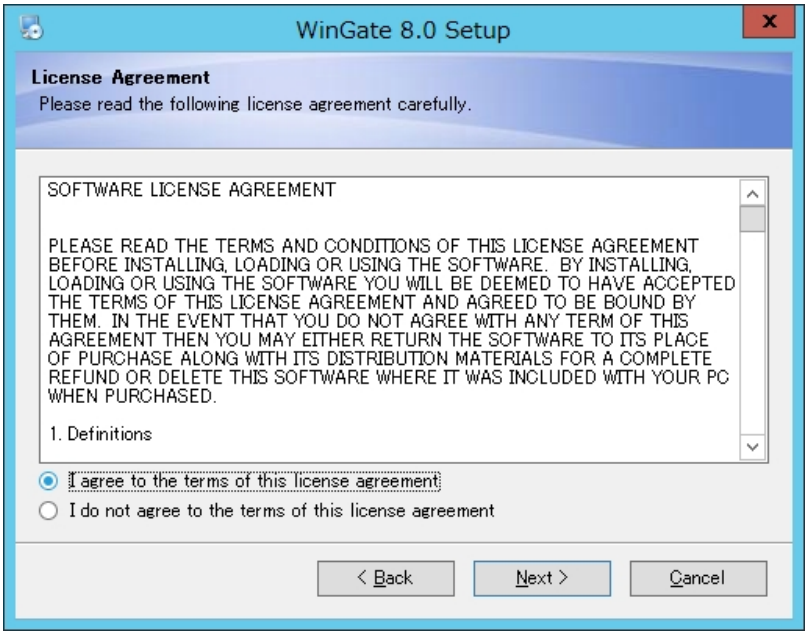


3. インストーラーが開始されます。



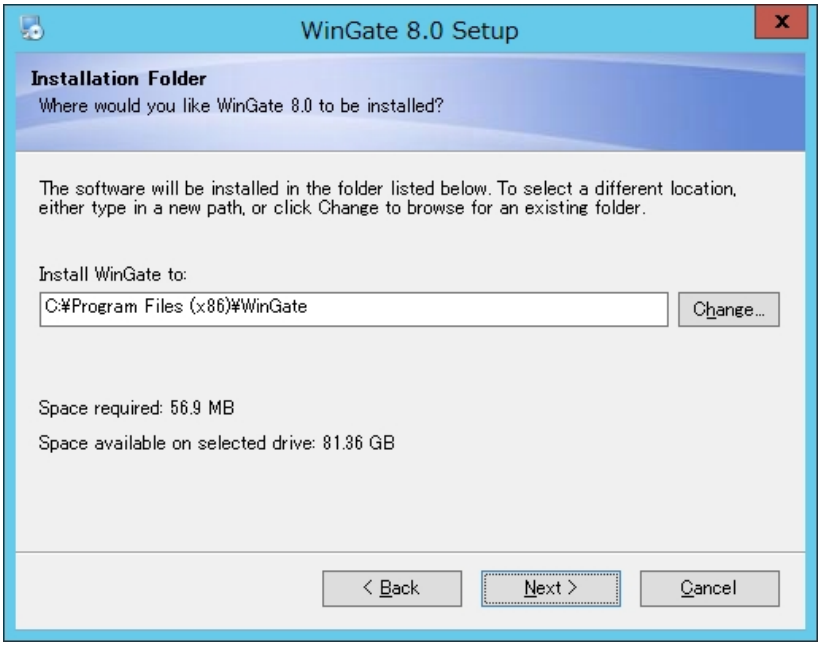
Welcome ダイアログが表示されます。起動している他のプログラムがある場合は、終了いただく事をお勧めいたします。Cancel（キャンセル）ボタンでインストールをキャンセルすることができます。
問題がない場合、「Next」をクリックして、次へ進みます。

4. License Agreement（ライセンス許諾）が表示されます。



同意いただける場合は「I agree to the terms of this License agreement」（ライセンス許諾に同意）を選択して「Next」ボタンで次へ進みます。

5. Installation Folder（インストールフォルダ）が表示されます。

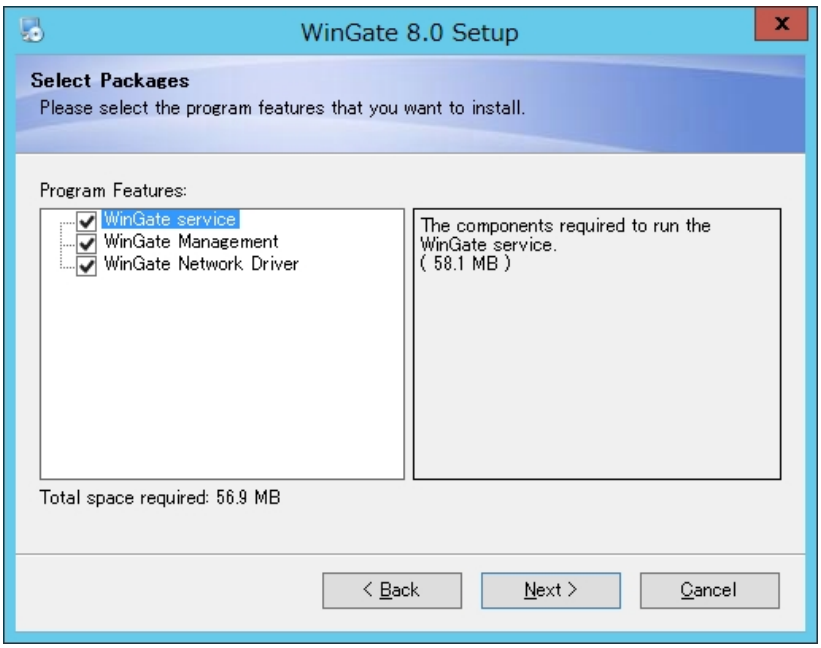


WinGate をインストールするフォルダーを選択します。インストールフォルダーは、51.0MB の空き容量が必要となります。（Space available on selected driver:）には、指定されたフォルダーの現在の空き容量が表示されております。

64bit 環境の Windows では、デフォルトのインストールディレクトリは C:¥Program files(x86)¥WinGate となります。変更する場合は「Change」ボタンをクリックして、フォルダーの参照ダイアログよりインストールディレクトリを指定してください。

設定が完了いたしましたら「Next」ボタンで次へ進みます。

6. Select Packages ダイアログが表示されます。**（重要）**



ここでは、インストールする WinGate のパッケージを選択します。

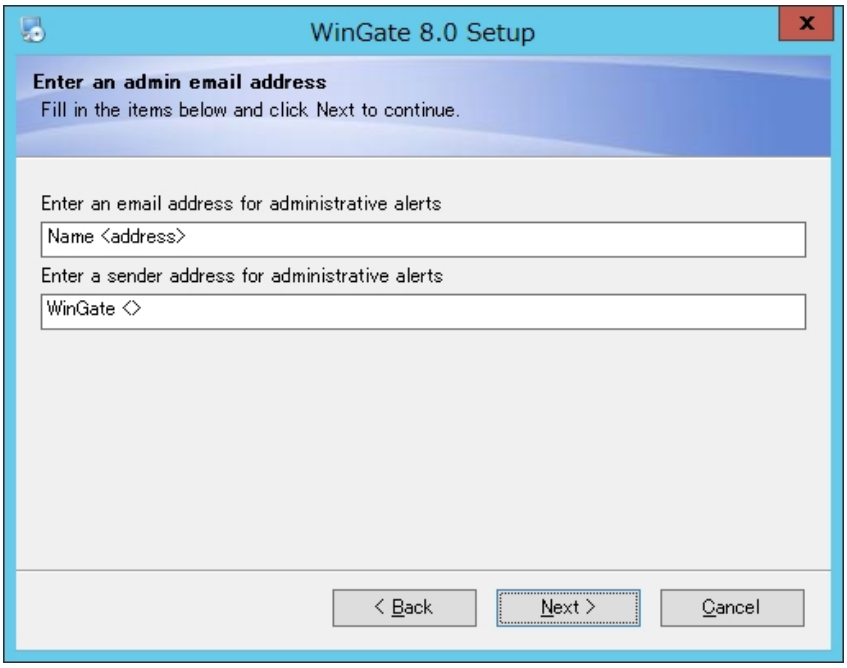
選択項目の内容は以下の通りです。

WinGate Service = WinGate の各サービスとなります。WinGate をプロキシサーバーなどとして使用する場合は、この項目が選択されている必要があります。
WinGate Management = WinGate の管理ツールである「WinGate Management」（WinGate マネージメント）をインストールします。
WinGate Network Driver = WinGate の Extended Networking 機能です。ファイアウォール、VPN、NAT 機能を使用する場合には、こちらを選択します。

ご注意（重要）: 単にプロキシサーバーとしてのみ WinGate を使用する場合のインストールでは、WinGate Network Driver を必要としない場合があります。この場合、WinGate Service、WinGate Management のみを選択してください。
WinGate Network Driver は、WinGate へ Extended Network Driver をインストールします、ファイアウォール、VPN、NAT 機能を使用しない場合は、この項目を選択する必要はありません。（例プロキシサーバーとしてのみ WinGate を使用する場合など）
また、インストール後に無効化することはできますが、WinGate Network Driver のみをアンインストールすることはできません。

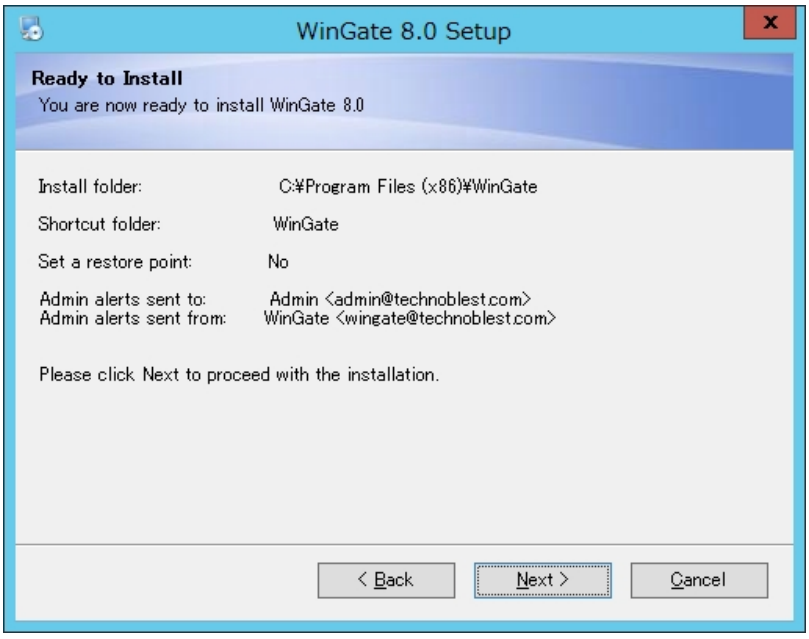
選択が完了いたしましたら「Next」ボタンで次へ進みます。

7. Enter an admin email address が表示されます。



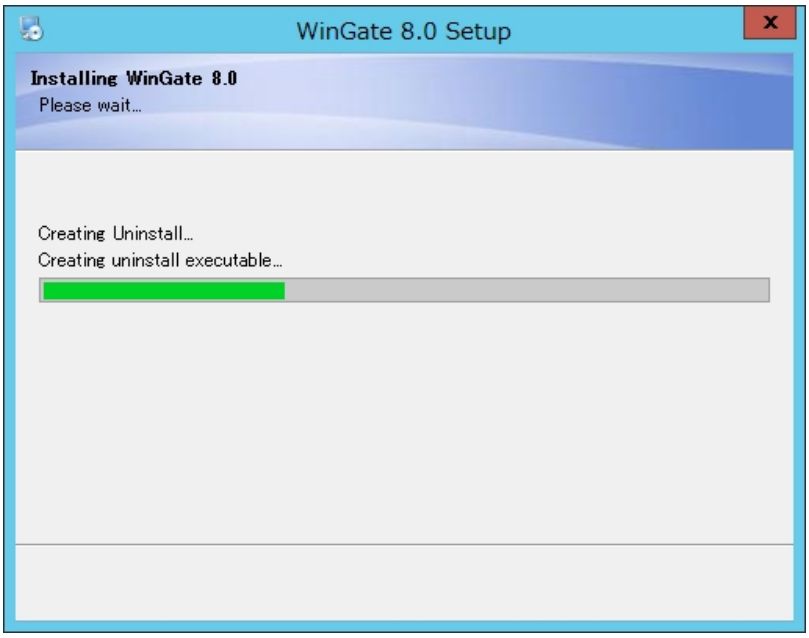
ここでは、WinGate インストール完了後に、警告などを配信する管理者の電子メールアドレスを入力してください。（必須ではありませんが入力をいただかない場合、インストール完了後にポリシー設定で警告が表示されます。）
ここで設定した電子メールアドレスへ警告メールを配信するには、インストール完了後に配信設定を行う必要があります。
設定が完了いたしましたら「Next」で次へ進みます。

8. Ready to Install が表示されます。

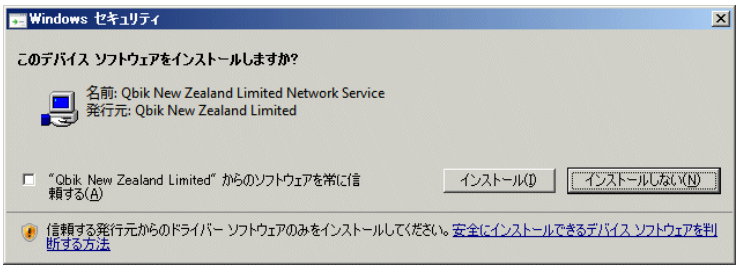


これまでのダイアログで設定した内容が表示されますので、これらの内容に問題がない場合は、「Next」ボタンでインストールを開始します。内容を修正する場合は「Back」ボタンで必要な箇所まで戻り、設定を変更してください。

9. インストールが開始されます。

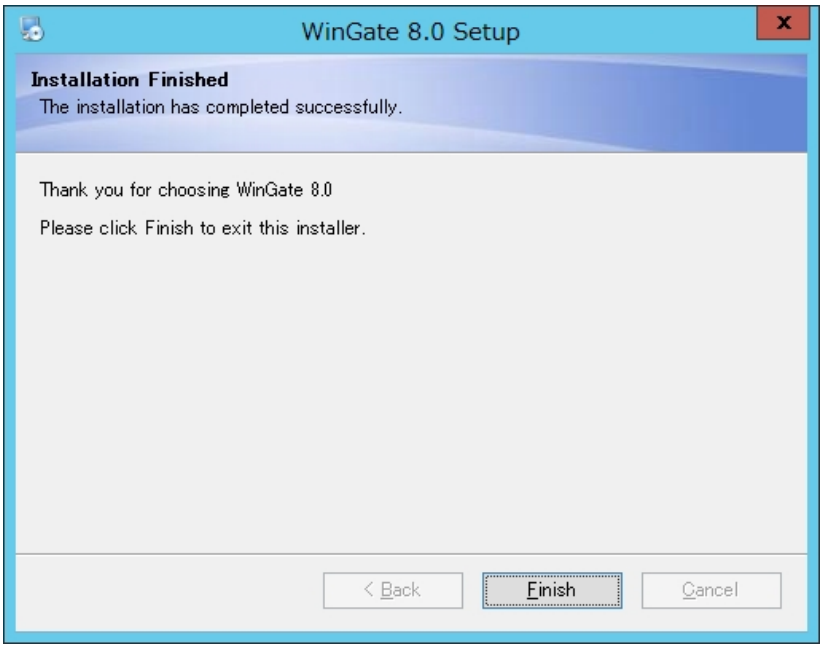


WinGate Network Driverを選択した場合、インストール途中にWindowsセキュリティダイアログが表示される場合があります。(Windows Server 2008 など)



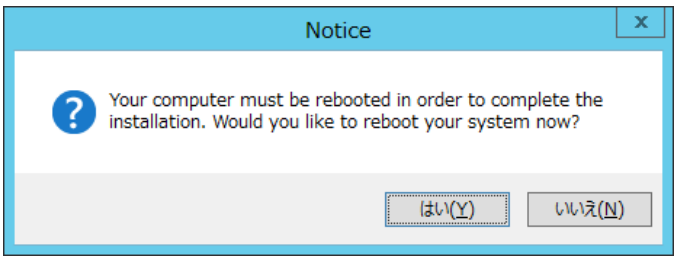
このダイアログが表示された場合、「インストール」「を選択して WinGate のインストールを継続してください。

10. Installation Finished が表示されます。



以上で WinGate のインストールは完了となります。Finish ボタンをクリックして、インストールを終了してください。

11. ダイアログが閉じられた後、WinGate Network Driver のインストールを選択している場合は PC の再起動を促す以下のダイアログが表示されます。



「はい」をクリックすると PC の再起動を行います。WinGate Network Driver のインストールを選択していない場合、PC の再起動は必須ではありませんが、再起動いただく事をお勧めいたします。

以上でインストールは完了となります。

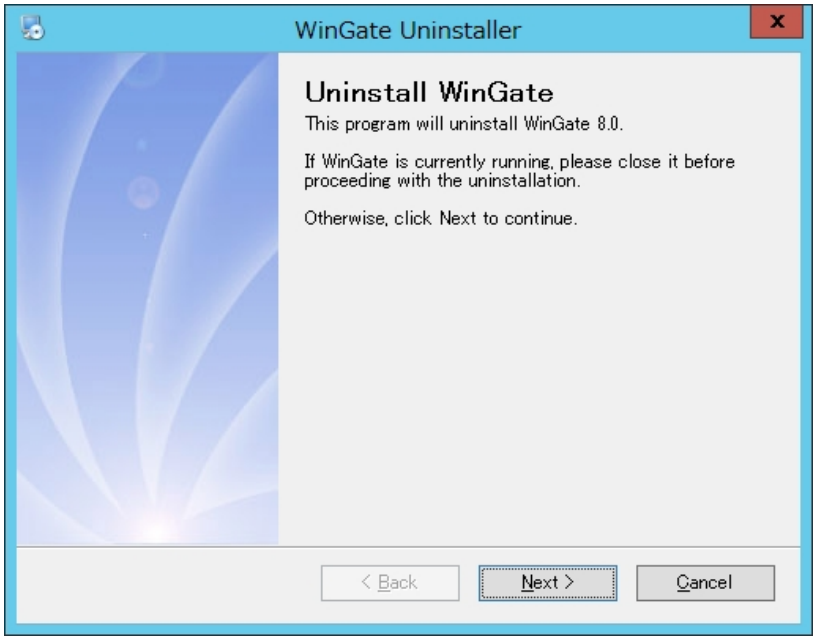
WinGate のアンインストール

WinGate のアンインストールは、Windows のスタートメニュー、WinGate、Uninstall WinGate（WinGate のアンインストール）を実行、または Windows コントロール・パネルより行うことができます。

ご注意：WinGate のアンインストールを行うことにより、WinGate の全ての設定情報、ログ情報などが失われます。必要に応じてアンインストールを行う前にバックアップしてください。

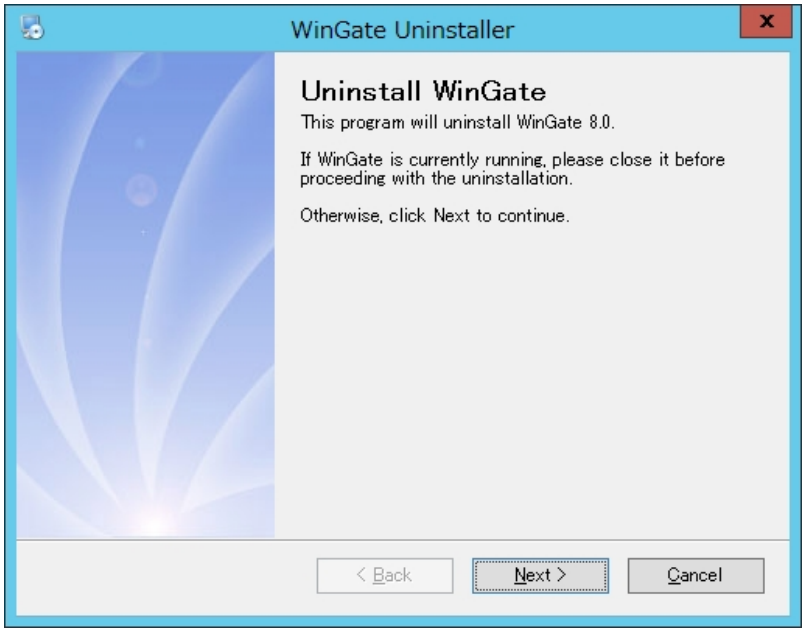
アンインストールを行う場合は、WinGate エンジンは開始されている状態でも問題はありませんが、WinGate Management は終了してください。

1. アンインストールを実行すると Uninstall WinGate e（WinGate のアンインストール）ダイアログが表示されます。



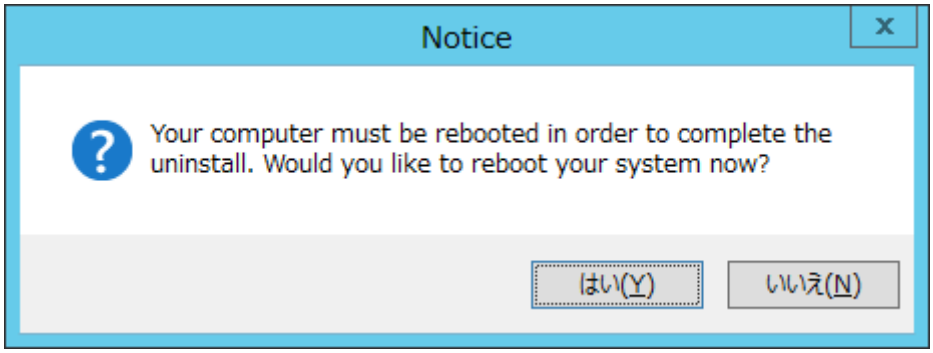
「Next」クリックして次へ進みます。

2. アンインストール開始が開始され、終了すると「Uninstall successful」ダイアログが表示されます。



「Finish」ボタンをクリックして、インストールを完了します。

3. アンインストールが完了すると再起動を促すダイアログが表示されます。



「はい」をクリックして、PC の再起動を行ってください。

以上で WinGate のアンインストールは完了となります。

インストール完了後に行う内容

WinGate の新規インストール完了後には、WinGate の使用を開始するために幾つかの設定を行う必要があります。

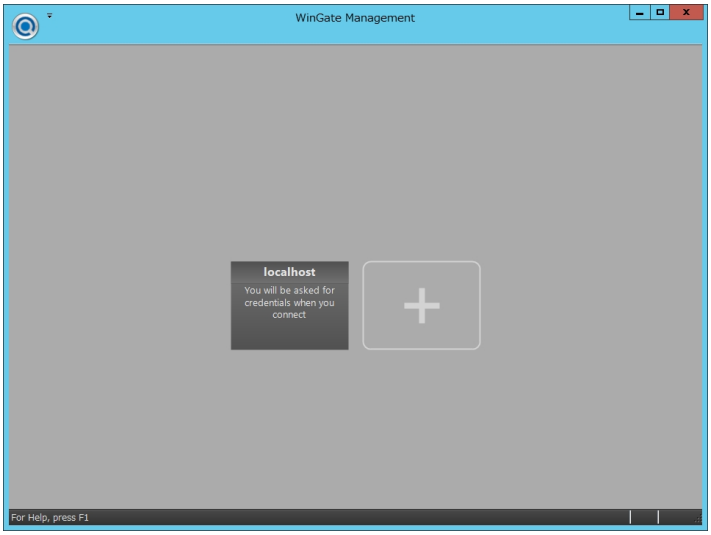
- ライセンスアクティベーション（**WinGate の再起動が必要**）
  WinGate をご利用いただくには、ライセンスのアクティベーションを実施いただく必要があります。アクティベーションが完了するまで WinGate をご利用いただくことはできません。
  アクティベーションは、インターネット経由、または他のインターネット接続可能なマシンからのオフラインアクティベーションをサポートします。詳細な方法に関しましては、本書のアクティベーションの章をご覧ください。

- ユーザーデーターベースの選択（**WinGate の再起動が必要**）
  WinGate は、WinGate で使用するユーザーデーターベースに WinGate ユーザーデーターベース、Windows ユーザーデーターベース、Active Directory ユーザーデーターベースを選択いただく事ができます。（これらの 3 種類を併用することはできません。）
  ご利用の目的に合わせてユーザーデーターベースを選択してください。
  WinGate ユーザーデーターベースは、WinGate 独自のユーザーデーターベースとなり、WinGate マネージメントでユーザーの追加、削除などの管理を行うことができます。
  Windows、Active Directory ユーザーデーターベースでは、ユーザーの管理はそれぞれのユーザーデーターベースに依存いたします。また、これらのユーザーデーターベースを使用した場合には、WinGate マネージメントへのログインにも。これらのユーザーデーターベースの管理者アカウントを使用いたします。
  Active Directory ユーザーデーターベースを使用する場合、WinGate マシンは Active Directory のメンバーである必要があります。

ライセンスアクティベーション

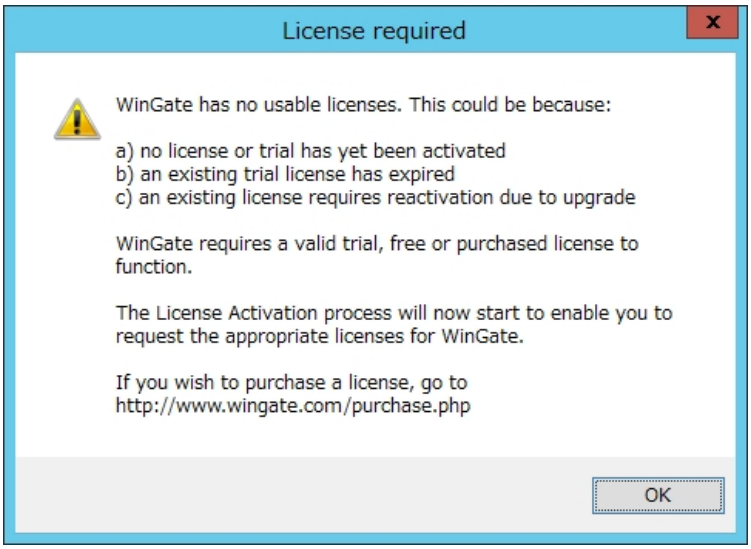
WinGate をご利用いただくには、ライセンスキー情報の入力とアクティベーションが必要となります。
試用版をご利用いただく場合にも、試用版としてのアクティベーションが必要となります。
初回起動時のログイン、およびアクティベーション手順は以下の通りとなります。

1. 新規インストール後に WinGate 起動した場合、管理ツールである「WinGate Management」を起動すると、WinGate Management ダイアログが開きます。



ログインを行うため、WinGate Management 内に表示されている Localhost をクリックします。

2. License required ダイアログが表示されます。

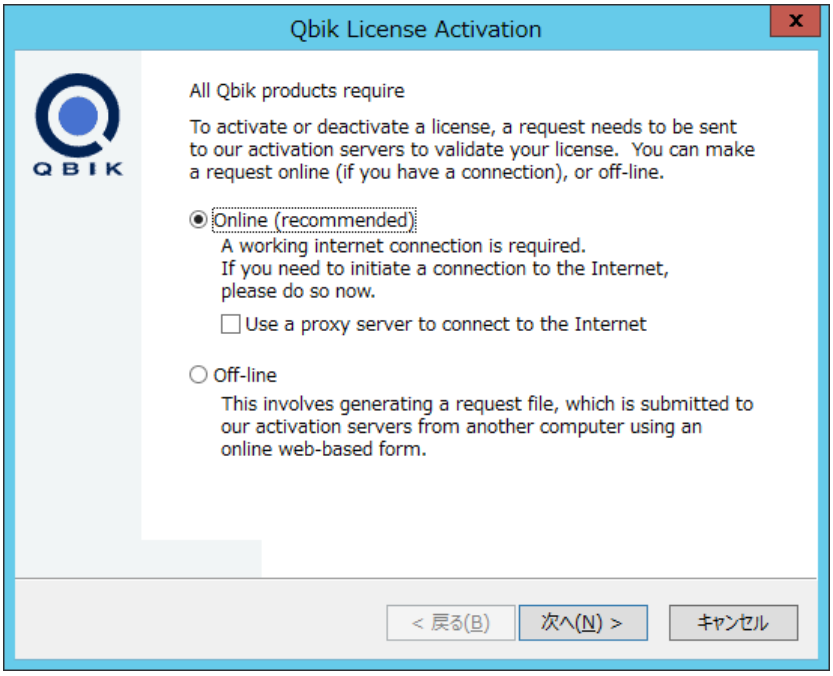


このダイアログは、以下の場合に表示されます。

- 新規インストールなどで正規版・試用版ライセンスがアクティベートされていない場合
- 試用版の試用期間が終了した場合
- アップグレード保護の期間が終了しアップグレード保護の更新が必要な場合

OK ボタンをクリックします。

3. Qbik License Activation ダイアログが表示されます。



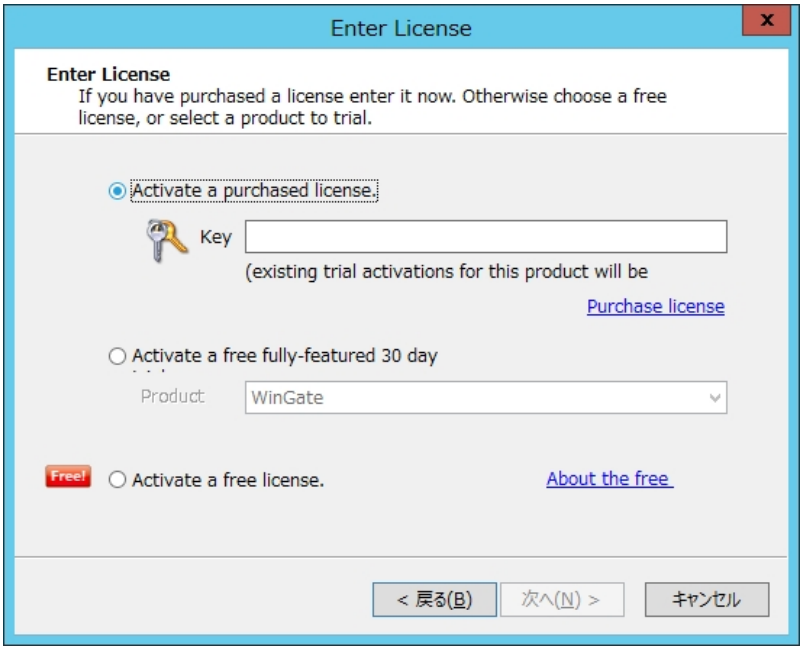
アクティベーションは、インターネット経由（推奨）、および電子メールによるオフラインアクティベーションが可能となります。

WinGate PC がインターネット接続環境を持つ場合には、Online（オンライン）を選択して、インターネット経由でのアクティベーションを実行してください。（**推奨**）

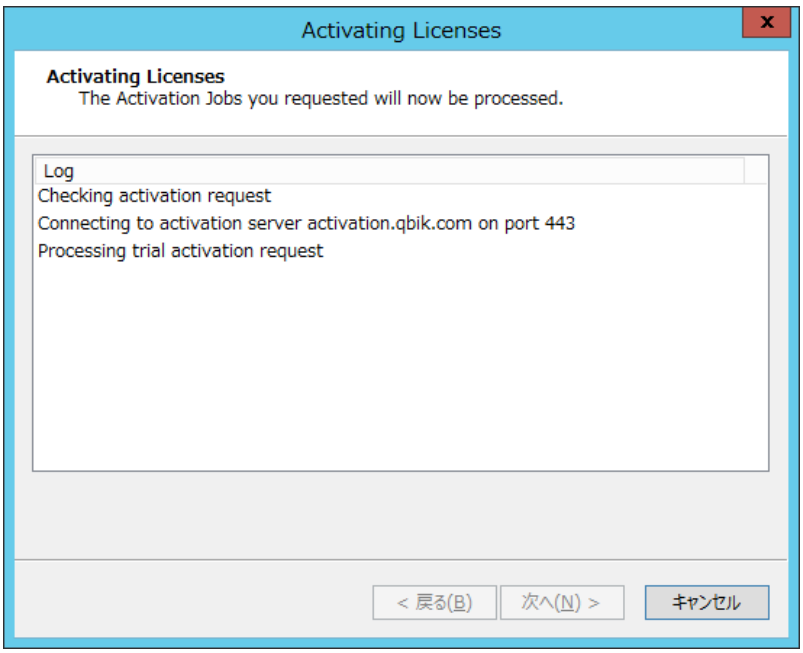
WinGate PC がインターネット接続環境を持たない場合は、Off-line（オフライン）を選択して、電子メールによるアクティベーションを行ってください。
アクティベーション方法を選択して「次へ」をクリックします。

4. **オンラインアクティベーション**

Online を選択し「次へ」ボタンをクリックすると以下のダイアログが表示されます。



既にライセンスキー情報をお持ちの場合は、Activate a purchased license を選択し Key 欄にライセンスキー情報を入力して「次へ」ボタンをクリックしてください。
試用版をご利用いただく場合は、Activate a free 30 day trial を選択し Product ドロップダウン・メニューで試用版として利用する製品を選択し「次へ」ボタンをクリックしてください。

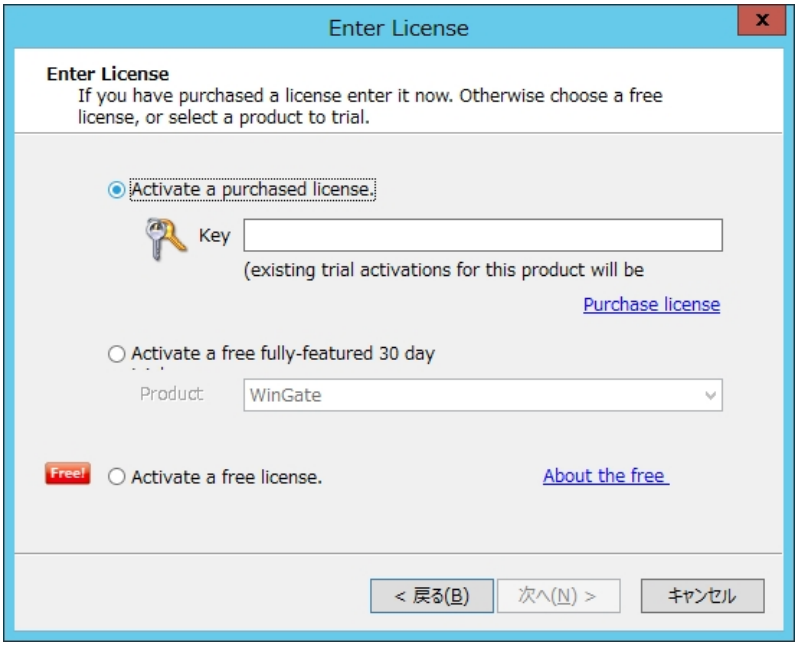


アクティベーションが開始され、完了すると「succeed」（成功しました）と表示されますので完了ボタンをクリックしてください。
以上でオンラインアクティベーションは完了となります。

ライセンスを有効にするために WinGate を再起動する必要があります。ダイアログの指示に従い WinGate の再起動を行ってください。

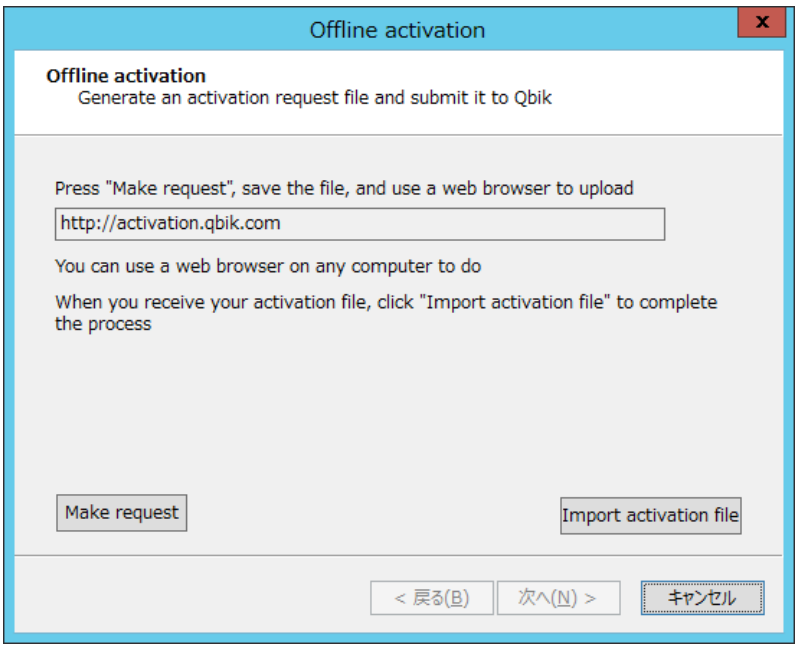
オフラインアクティベーション

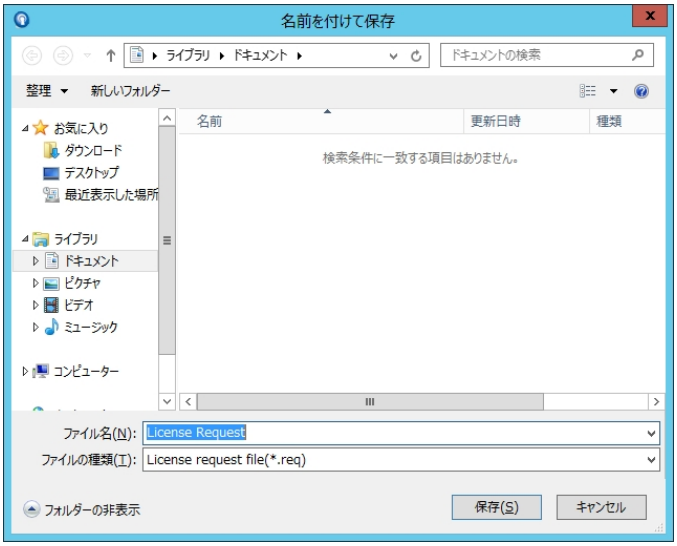
Off-line を選択し「次へ」ボタンをクリックすると以下のダイアログが表示されます。



既にライセンスキー情報をお持ちの場合は、Activate a purchased license を選択し Key 欄にライセンスキー情報を入力して「次へ」ボタンをクリックしてください。

試用版をご利用いただく場合は、Activate a free 30 day trial を選択し Product ドロップダウン・メニューで試用版として利用する製品を選択し「次へ」ボタンをクリックしてください。





名前を付けて保存ダイアログが表示されますので、任意の場所へファイルを保存してください。

インターネットアクセスが可能なマシンに保存したファイルを保存し、ブラウザで http://activation.qbik.com/ へアクセスします。

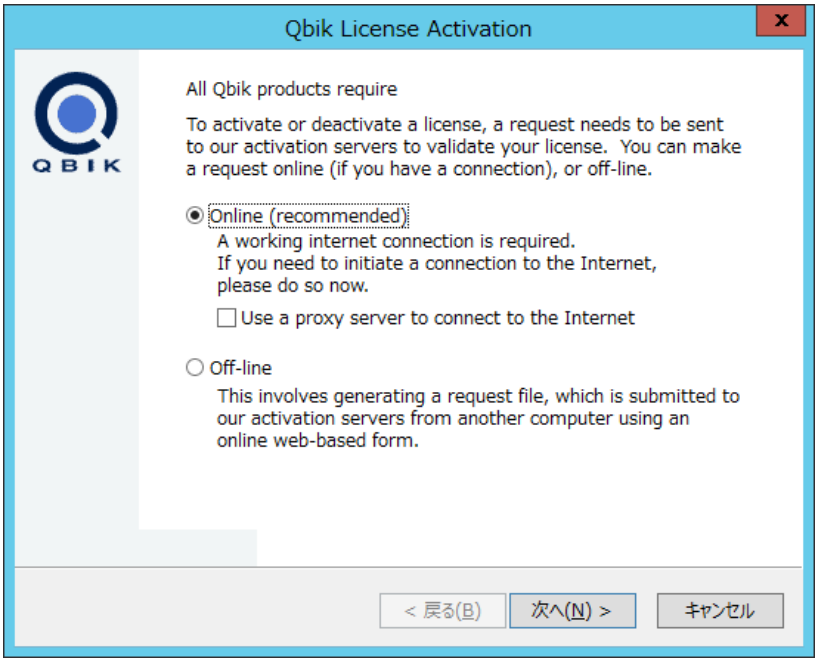
WinGate 開発元である Qbik New Zealand 社の Offline activation ページが表示されますので、「Choose file:」で参照ボタンをクリックして先程保存したファイルを指定してください。

指定が完了いたしましたら「Upload」ボタンをクリックしてください。

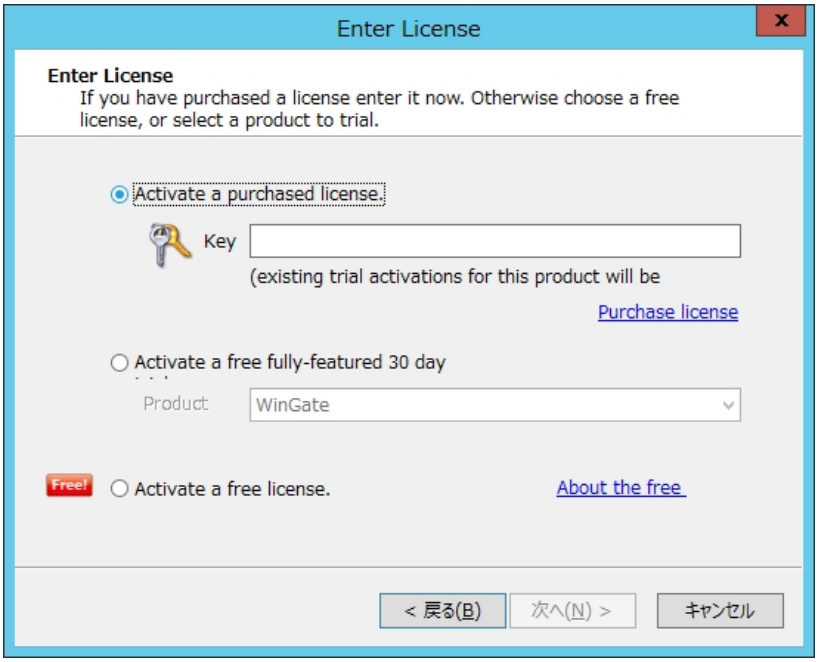
暫くするとブラウザでファイルの保存を促す表示がされますので、ファイルを任意の場所に保存してください。

保存したファイルを WinGate PC で読み込み可能なようにします。

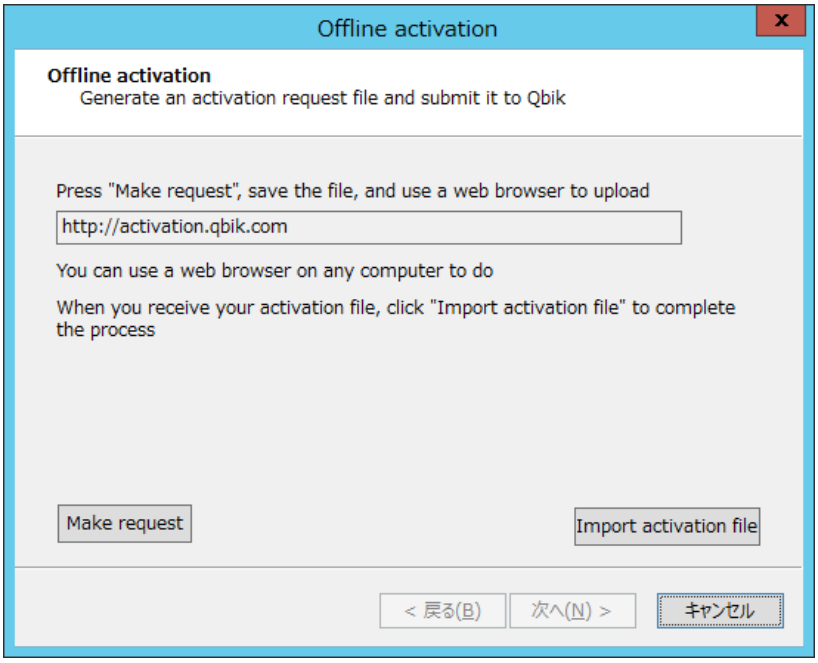
WinGate Management を開始するとアクティベーションを行うためのダイアログが表示されます。



Off-line を選択し「次へ」ボタンをクリックします。



キー情報の入力、または試用版の選択を行い、「次へ」ボタンをクリックします。

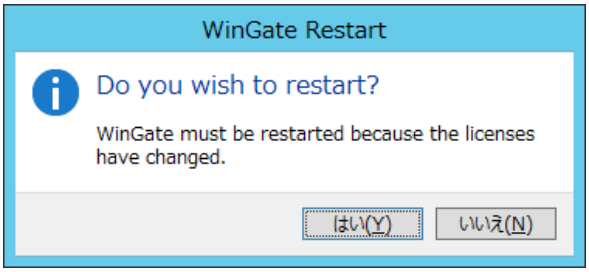


Import activation file（アクティベーションファイルのインポート）を選択し、ダウンロードしたファイルを指定します。

インポートが完了いたしましたら「完了」ボタンをクリックします。

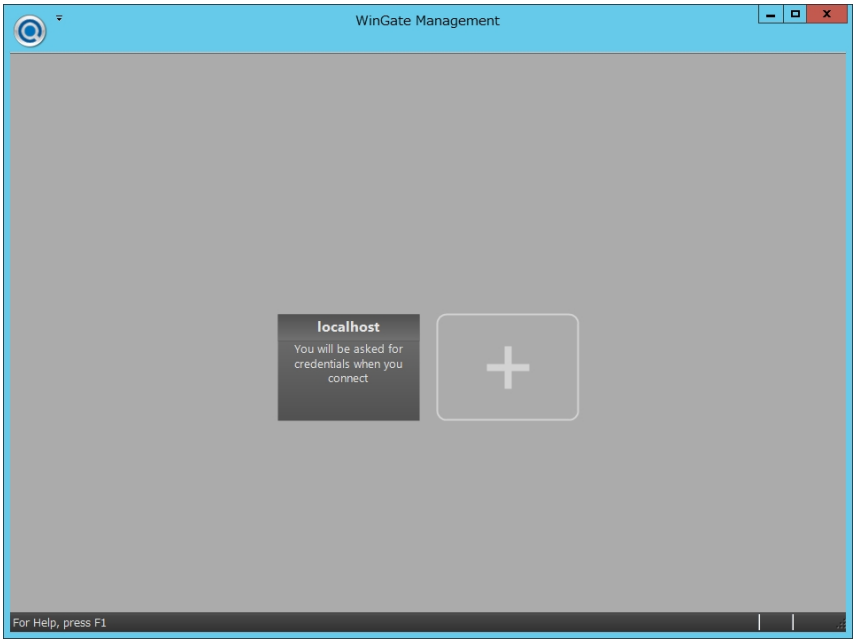
以上でオフラインアクティベーションは完了となります。

ライセンスを有効にするために WinGate を再起動する必要があります。ダイアログの指示に従い WinGate の再起動を行ってください。



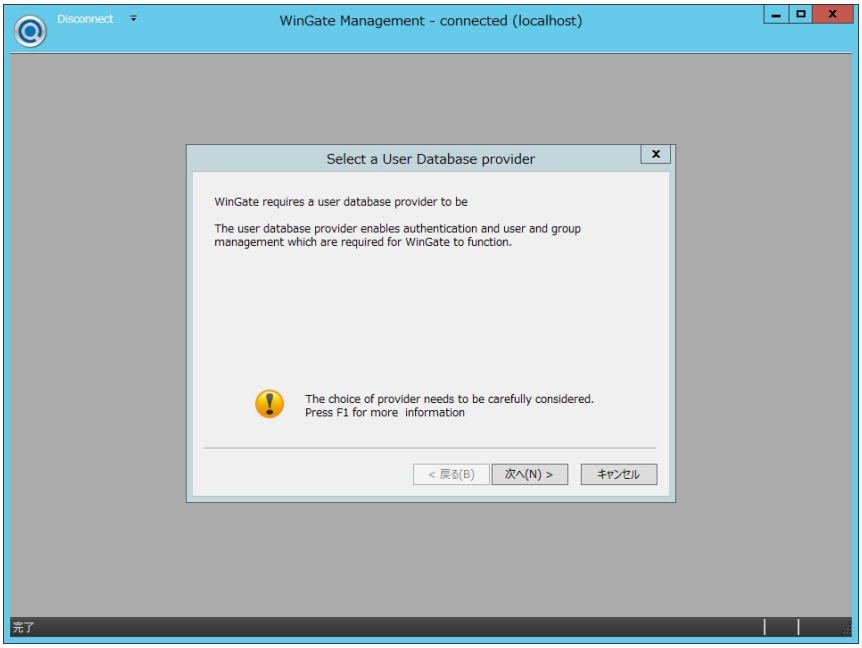
ユーザーデーターベースの選択

WinGate Management を開始すると中央にログイン先へのリンクが表示されます。

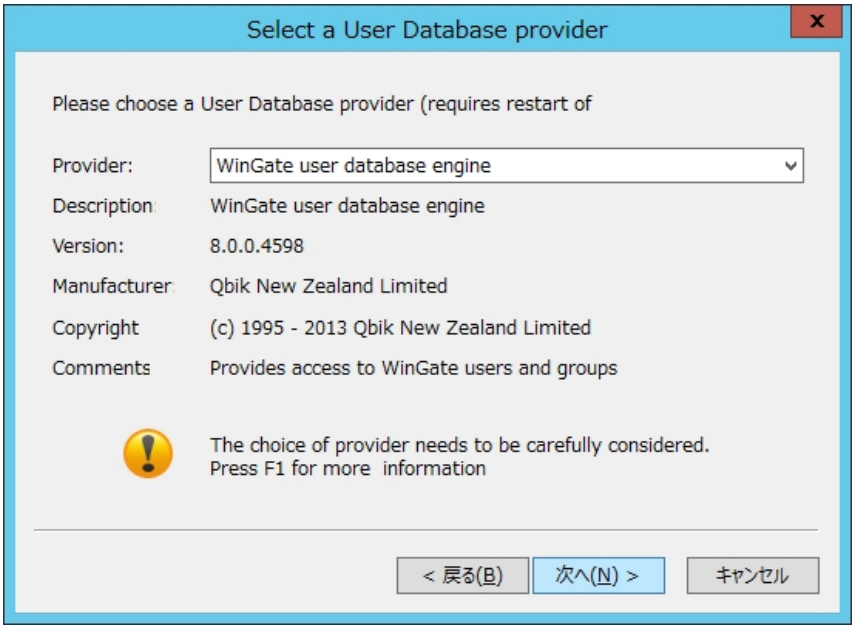


Localhost をクリックします。

「Select a User Database Provider」（ユーザー・データベース・プロバイダーの選択）ダイアログが表示されます。



「次へ」ボタンをクリックします。



このダイアログでは、WinGate で使用するユーザーデーターベースの種類を選択します。
選択できるユーザーデーターベースは、以下の 3 種類です。

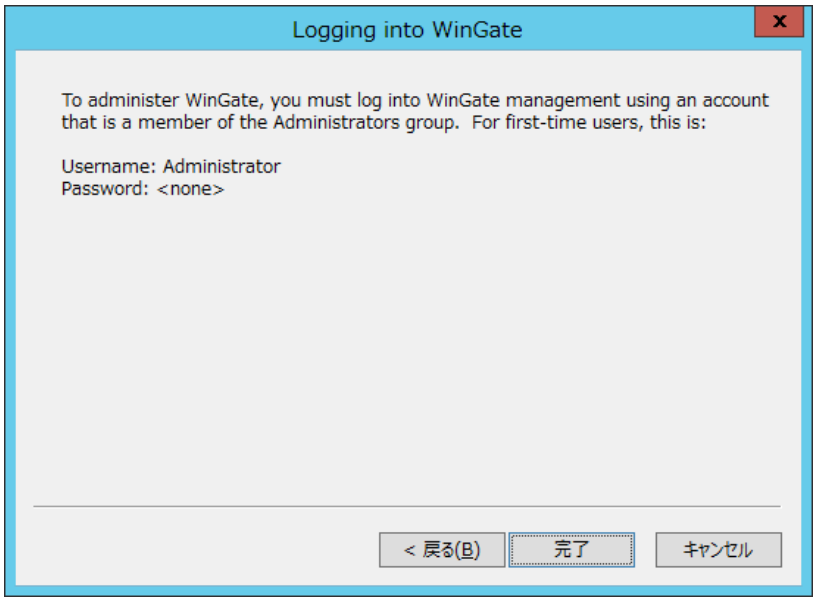
1. Active Directly Connector（アクティブ・ディレクトリ・コネクタ）
   このオプションを選択した場合、WinGate は Active Directly ユーザーデーターベースを使用します。
   ご注意：Active Directly Connector を使用する場合、WinGate PC は、Active Directly のメンバーである必要があります。
   Active Directly Connector を使用するには WinGate Professional、または WinGate Enterprise ライセンスが必要となります。

2. Windows Users and Groups Connector（Windows ユーザーとグループコネクタ）
   このオプションを選択した場合、WinGate は WinGate がインストールされている PC の Windows ユーザーデーターベースを使用します。（※Windows Home を使用している場合は、この選択を使用しないでください。編集するまでローカルユーザーとグループは利用することができません。）

3. WinGate users database engine（WinGate ユーザーデータベース・エンジン）
   このオプションを選択した場合、WinGate は WinGate 独自のユーザーデーターベースを使用します。

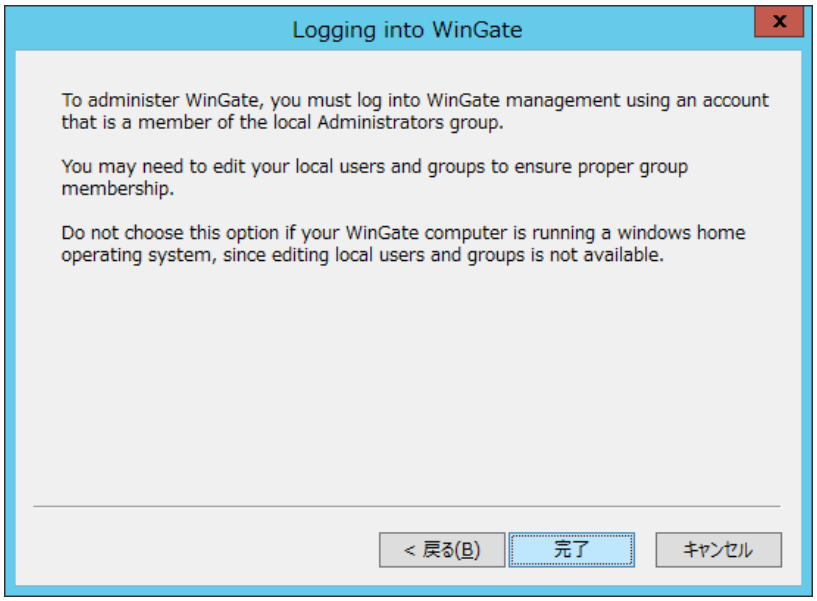
選択が完了いたしましたら「次へ」ボタンをクリックします。

- Active Directly Connector を選択した場合

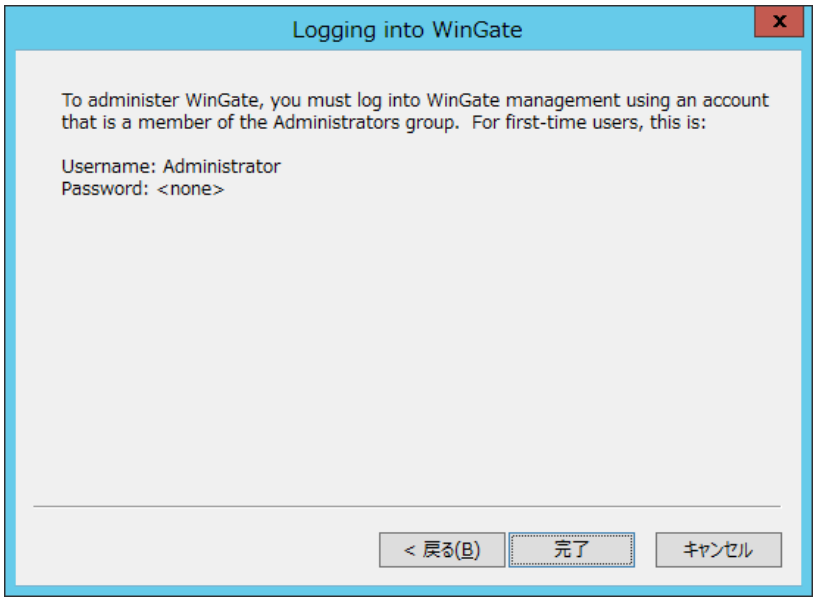


WinGate を管理するためには WinGate Management へドメイン管理者グループメンバーのアカウントでログインする必要があることを示すメッセージが表示されます。

- Windows Users and Groups Connector を選択した場合
  WinGate を管理するためには WinGate Management へローカル管理者グループのアカウントでログインする必要があることを示すメッセージが表示されます。

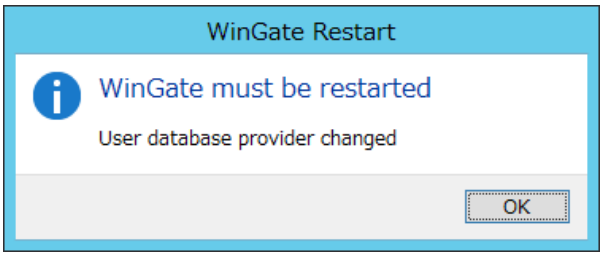


- WinGate users database engine を選択した場合
  WinGate Management へログインするためには、WinGate ユーザーデータベーの管理者グループのアカウントでログインする必要があることを示すダイアログが表示されます。
  ユーザーデーターベースでアカウントが設定されていない、初回のログインでは Username（ユーザー名）: Administrator、Password（パスワード）:（空白）でログインします。



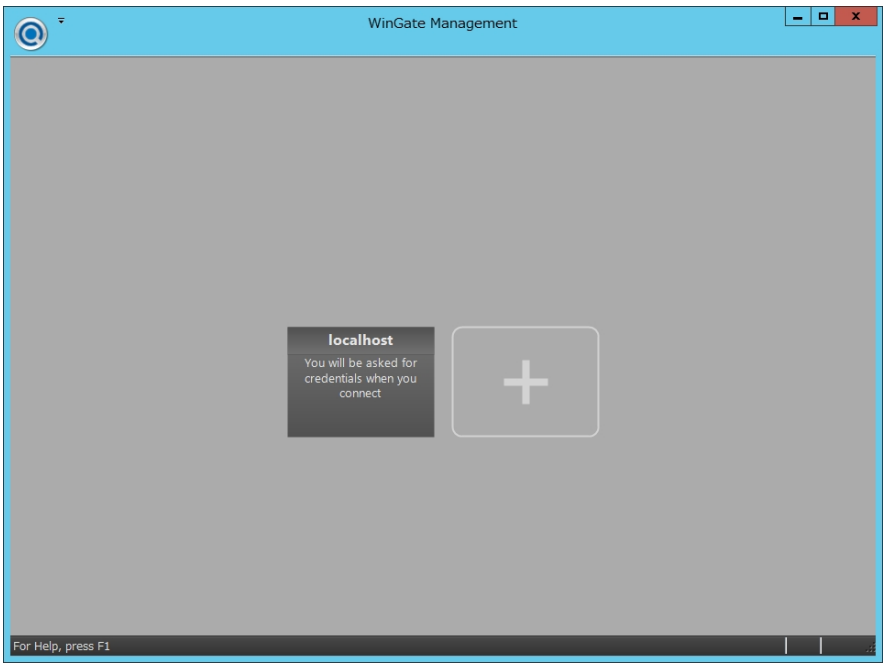
何れの選択の場合でも完了ボタンをクリックして、ユーザーデーターベースの選択を終了してください。

ユーザーデーターベースの選択が完了すると WinGate は、新しいユーザーデーターベースを認識するために再起動する必要があります。



ダイアログの指示に従い WinGate の再起動を行ってください。

WinGate の再起動完了後に WinGate Management を開始すると以下の画面となります。



画面中央の Localhost をクリックし

WinGate Security ダイアログが表示されます。

Windows Users and Groups Connector、Active Directly Connector を選択した場合で、Windows で使用している現在のユーザーアカウントが管理者権限を持つアカウント、または Administrator アカウントである場合は、Log on as current Windows user を選択して、現在の Windows ユーザーアカウントでログインしてください。

WinGate users database engine や Log on as current Windows user で表示されているアカウント以外を使用する場合は、Use another account をクリックして、ログインに使用するアカウントを、入力してログインしてください。

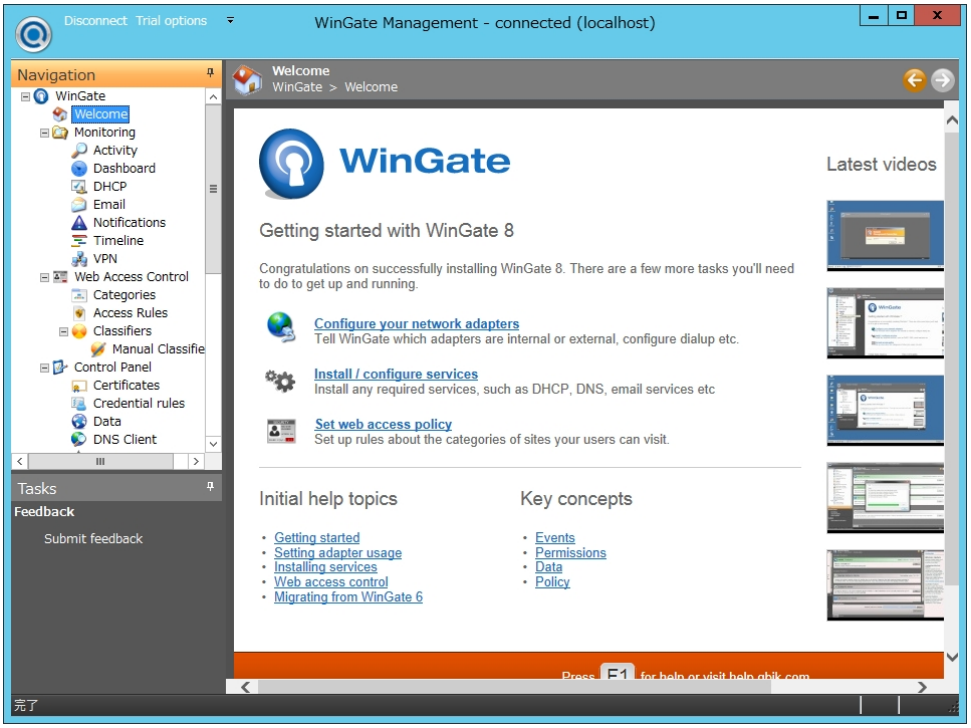
Save changes to profile を選択すると、入力したログインプロファイルが保存されます。

WinGate users database engine を指定した場合、初回のログインは Administrator、パスワードは空白でログインできます。
ログインが完了すると WinGate Management が表示されます。

WinGate user database engine を指定した場合の Administrator パスワードの設定方法

WinGate Management ログイン後に、Navigation より Users and groups を選択します。中央に表示されますユーザーとグループの一覧から Administrator を選択し、右クリックで選択できるメニューから Set Password を選択します。表示されるダイアログで、New password、Confirm 欄に設定するパスワード入力して OK ボタンで終了します。

次回、ログイン時より設定したパスワードがログインに必要となります。



ログイン直後の WinGate Management 画面

以上で WinGate Management への初回ログインは完了となります。

この後は WinGate Management を使用して、お客様の環境に合わせた WinGate の構成を行ってください。

インストール完了後に確認する内容（重要）

新規インストールを行い、アクティベーション、ユーザーデーターベースの選択を行うと、WinGate を使用する準備が整いました。WinGate マネージメントへログインし、必要な設定を行ってください。

WinGate の使用を開始するにあたり、最小限以下の内容を確認してください。

デフォルトで構成されているサービス、サーバー機能

WinGate は、新規インストールで以下の、サービス、サーバーを持ちます。

名前	使用内容	削除の可否
Performance counters	WinGate の Performance counters で WinGate 内の情報を収集されるために使用されます。 通常、このサービスを停止する必要はありません。	不可
Remote Control Service	WinGate Management から WinGate エンジンに通信するために使用されます。 **ご注意：このサービスを停止した場合、WinGate エンジンと WinGate Management の通信が行えなくなり、WinGate Management でログインできなくなります。** **必要となります場合以外は、停止やポートの変更を実施しないでください。**	不可
SMTP delivery Service	メール配信を行う場合に、WinGate が内部的に使用するサービスとなります。SMTP Server や SMTP Proxy とは異なります。	不可
Scheduler	WinGate のスケジューラー・サービスとなります。停止した場合、WinGate の Scheduled Event で設定された内容は全て実行されません。	不可
WWW Proxy Server	WWW Proxy（HTTP Proxy）サーバー機能となります。	可
Web Admin service	ブラウザベースで WinGate の管理を行う場合に使用されるサービスとなります。現在は、アカウントのメールボックス設定やユーザー/グループ管理の一部のみが利用できます。	不可

ご利用をいただく機能に応じて、POP3 Proxy や DNS、DHCP サービスなどの追加を行ってください。

ネットワーク接続の確認（重要）

WinGate は、各サービス、プロキシサーバーのバインド設定で利用されるダイナミックなバインドをサポートします。

ダイナミックなバインドは、WinGate が利用可能なインターフェースを自動的に検出して、内部（Internal）か外部（External Interface）のどちらかであるか判断し、分類（IP アドレスの詳細に基づきます）します。

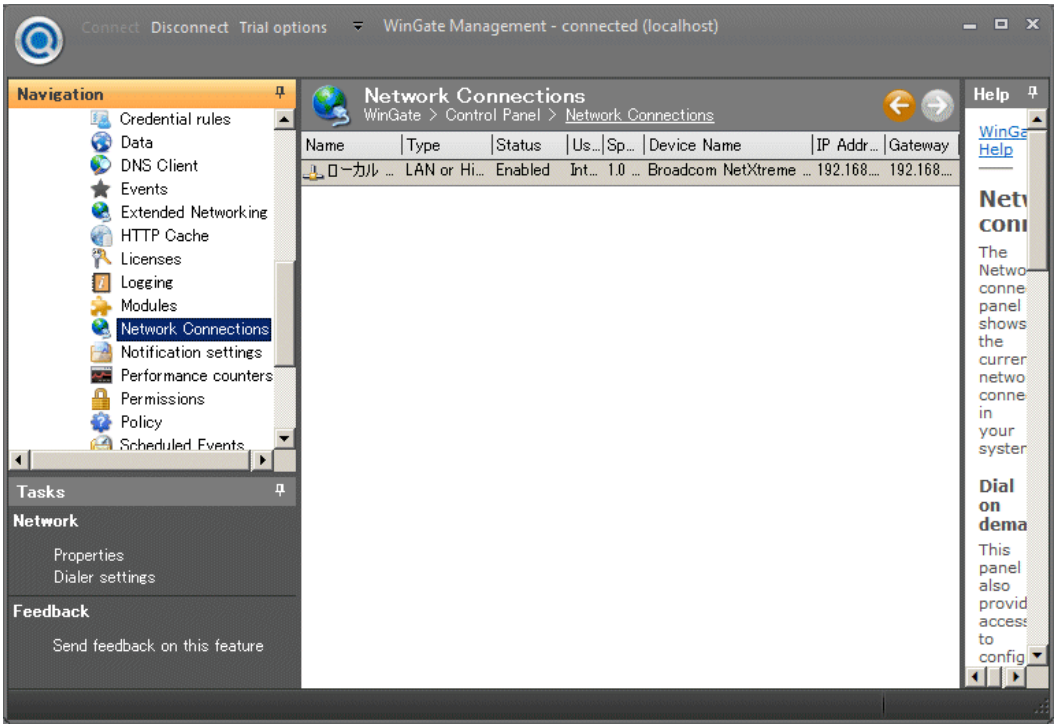
各サービス、サーバーのバインド構成は、デフォルト設定では、基本的にこの判断に基づき構成されます。

各サービス、プロキシのバインド構成は、デフォルトでは任意の内部アダプタとループバックアドレスにバインドさ

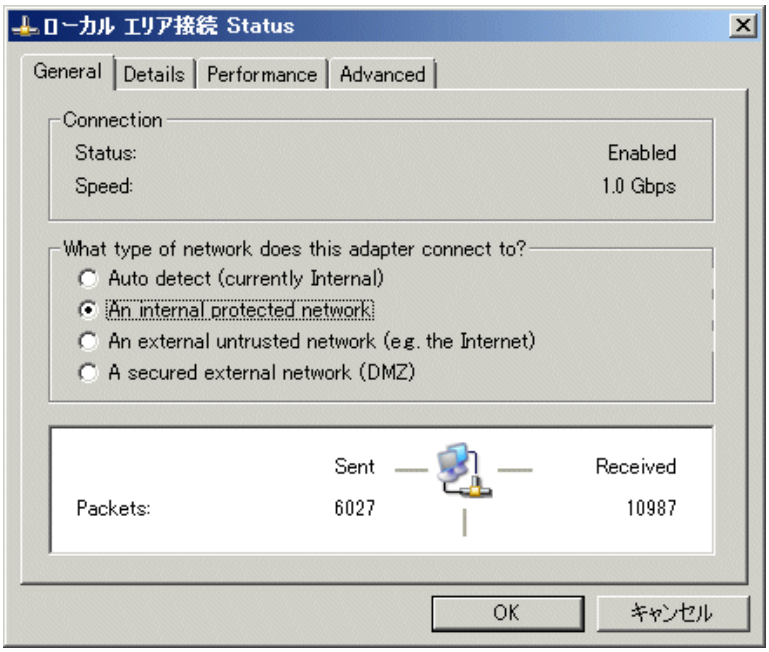
れる設定となります。
これはネットワーク接続で内部として認識・設定されているアダプタの IP アドレスがバインドされ、そのアダプタで接続が受けつかられることを意味します。
WinGate のネットワーク接続機能は、NIC の構成などから、内部、外部を自動検知いたしますが、この自動検知は必ずしも正しく検知できるわけではありません。
また、新たに NIC が追加された場合や、NIC の IP アドレスが変更された場合も、WinGate は自動的に変更・追加を検知し分類を行いますが、これも認識直後は自動検知として設定されます。

弊社では、自動検知の内容を必ずご確認いただき、可能な場合は手動で内部、外部の設定を行っていただく事をお願いしております。
インストール直後、NIC や IP アドレスの変更があった場合は必ず、この項目を確認してください。
また、この内部、外部の認識は Extended Networking 機能のファイアウォール、ポートセキュリティ、NAT 機能などの設定にも反映され、利用されます。

ネットワークインターフェースの確認方法
WinGate のダイナミック・バインドは WinGate マシンで利用可能なネットワークインターフェース（ダイアルアップ接続を含む）を自動的に検出して、WinGate Management の Network Connections で利用可能なネットワーク・アダプタを表示します。



設定の確認を行うネットワーク接続をダブルクリックして、そのネットワーク接続のプロパティを表示します。



上記の図では Auto detect（自動検知）で currently Internal（現在は内部）と表示されていることから、このネットワーク接続は現在 WinGate では内部の保護されたネットワーク用のインターフェースであると認識されています。（認識が正しい場合でも手動で設定いただくことをお勧めいたします。）

設定項目の内容は以下の通りです。

- Auto detect
  自動検知　カッコ内には、自動検知での構成が表示されます。currently Internal は内部、currently External は外部用となります。
- An Internal protected network
  内部の保護されたネットワークとなります。WinGate がクライアントから接続をうけるインターフェースは、通常、この設定となります。
- An external untrusted network (e.g. the Internet)
  信頼されない外部ネットワークとなります。NIC2 枚構成で、インターネットへ接続される側のインターフェースは、通常この設定をなります。
- A secured external network(DMZ)
  安全な外部のネットワーク（DMZ）となります。NIC3 枚構成で WinGate により DMZ を構成し、DMZ へ接続されるインターフェースは、通常この設定となります。

もし自動検知の内容がネットワークの構成に反している場合などは、適切な設定を選択いただくことにより、任意にネットワークインターフェースのタイプを変更することができます。

※この変更は WinGate の全てのバインド、ファイアウォール構成に影響します。

ログ取得内容の確認（重要）

WinGate のログはデフォルトでは、WinGate インストールフォルダーの Logs フォルダーに保存されます。

ログは Diagnostic（診断）ログと Usage（使用）ログの、2つのログから構成されています。

Diagnostic ログはデフォルトでは、警告（Warning）ログだけを記録し、全て Global.log という一つのログファイルに集約して保存されます。

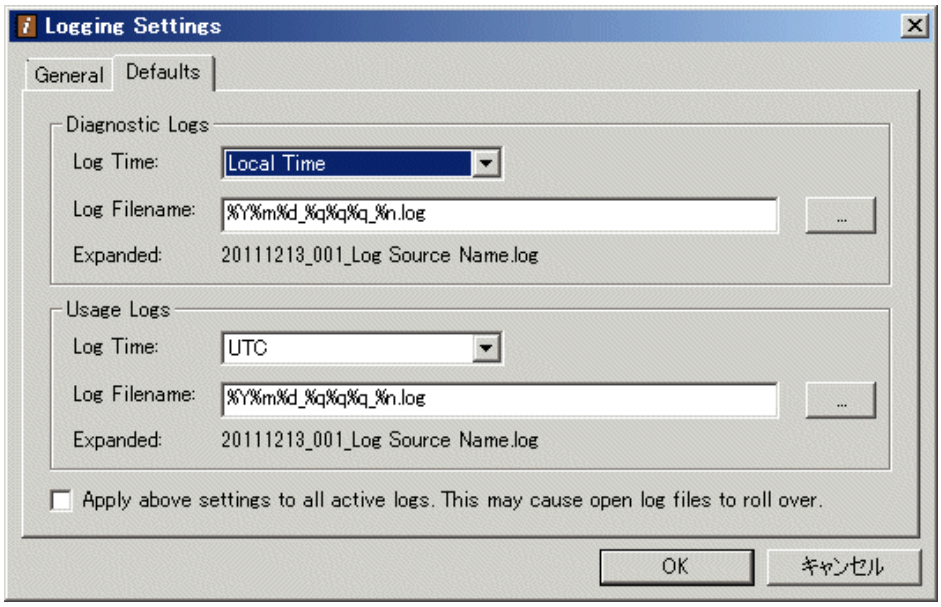
警告（Warning）ログは、主に WinGate の各サービスなどで発生したエラーのみを記録します。

これをサービス毎に取得する場合には、Logging の Sources タブで設定を変更してください。

Usage ログは、WinGate の WWW Proxy Server などで使用されるログになります。(WWW Proxy Server は Diagnostic ログも持ちますが、Diagnostic ログは診断用として別に記録されます。)

Usage ログはデフォルトではログに記録する時刻を UTC(協定世界時)で記録します。

これをローカル時刻に変更するには、WinGate Management の Navigation から Logging を選択し、Tasks から Settings をクリックします。



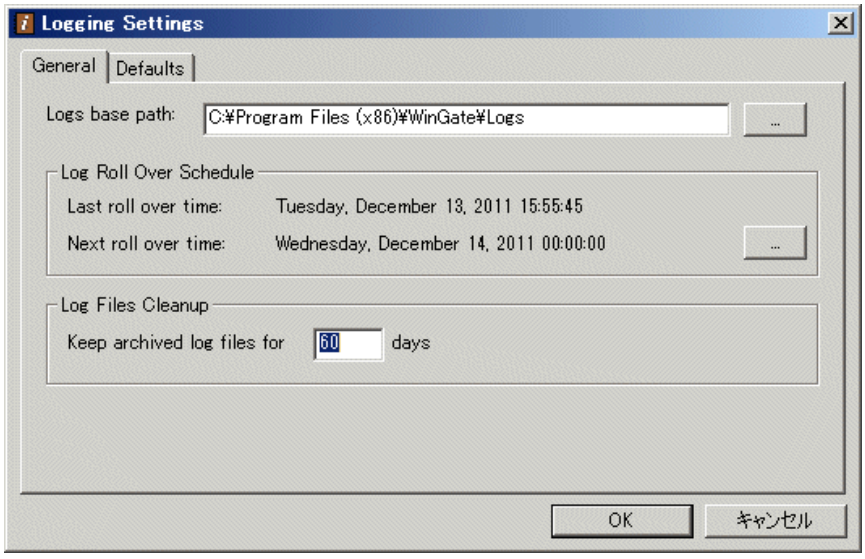
Defaults(デフォルト)タブの Usage Logs で Log Time から「Local Time」を選択します。

Apply above settings to all active logs. This may cause open log file to roll over.(全てのアクティブなログに上記の設定を適用する。これは開いているログファイルをロールーバーします。)を選択した場合、すぐに変更内容を適用し、現在のログファイルをロールーバーして、新しいログファイルに適用します。)

ログのクリーンナップ

WinGate のロギング機能は、**デフォルトでは、60 日間で古いログ情報を削除します。**

これを変更する場合は、WinGate Management の Navigation から Logging を選択し、Tasks から Settings をクリックします。

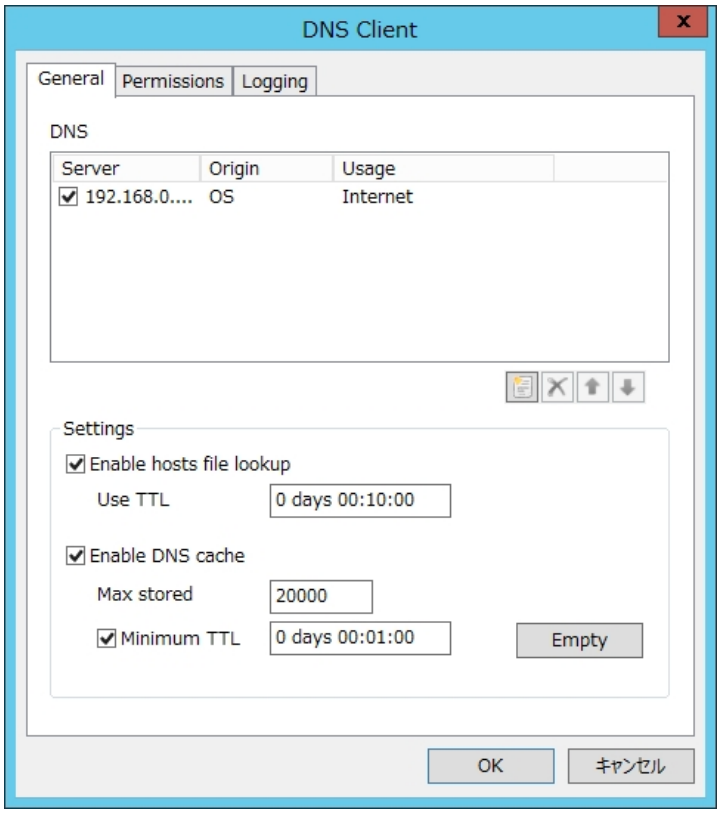


General（全般）タブの Log Files Cleanup よりログファイルのアーカイブを保持する日数を設定してください。

ご注意：ログ保存期間は、任意に指定する必要があります。（ログを削除しない設定はありません。）

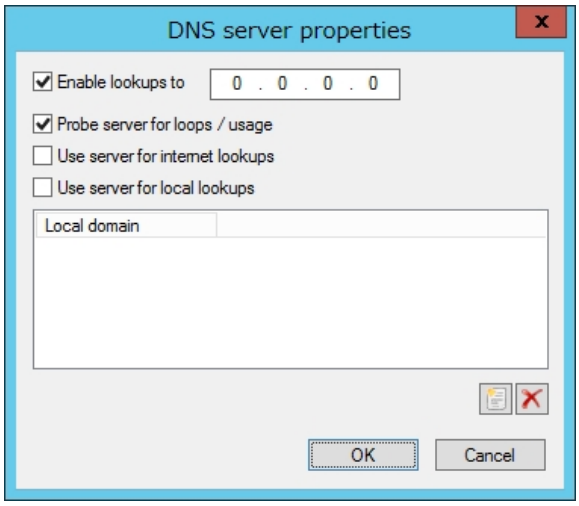
DNS Client（DNS クライアント）設定の確認

DNS Client は、WinGate 自身がインターネットアクセスする際に使用する DNS サーバーを指定する項目となります。



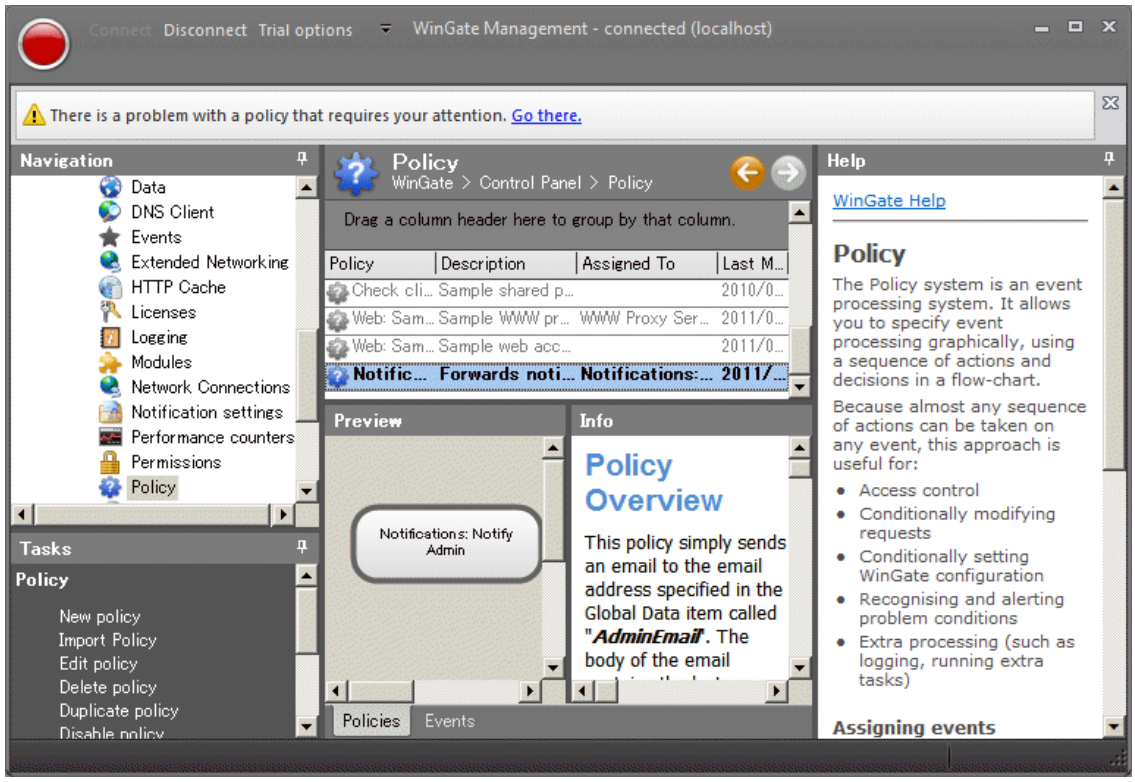
WinGate はデフォルトでは、OS の TCP/IP 設定で指定されている DNS サーバーを自動的に取得し、使用用途（Usage）を決定します。

ここで、DNS サーバーが表示されていない場合は、右下のボタンより手動で DNS サーバーを追加してください。また、使用用途（Usage）が Internet となっていない場合、WinGate はその DNS サーバーをインターネット接続の名前解決に使用できないため、Web ページなどの表示を行えない場合があります。この場合、表示されている DNS サーバーをダブルクリックし、DNS server properties より「Use server for internet lookups」（サーバーをインターネット参照に使用）を選択してください。



Notifications（通知）

インストール後、WinGate Management へログオンし、通知される内容があると左上のアイコンが赤く点滅し、WinGate の Notifications（通知）機能により、通知が表示される場合があります。



これは、管理者の電子メールアドレスの設定を促す通知となります。

この通知を消すには、Policy（ポリシー）をクリックし以下の設定変更を行ってください。

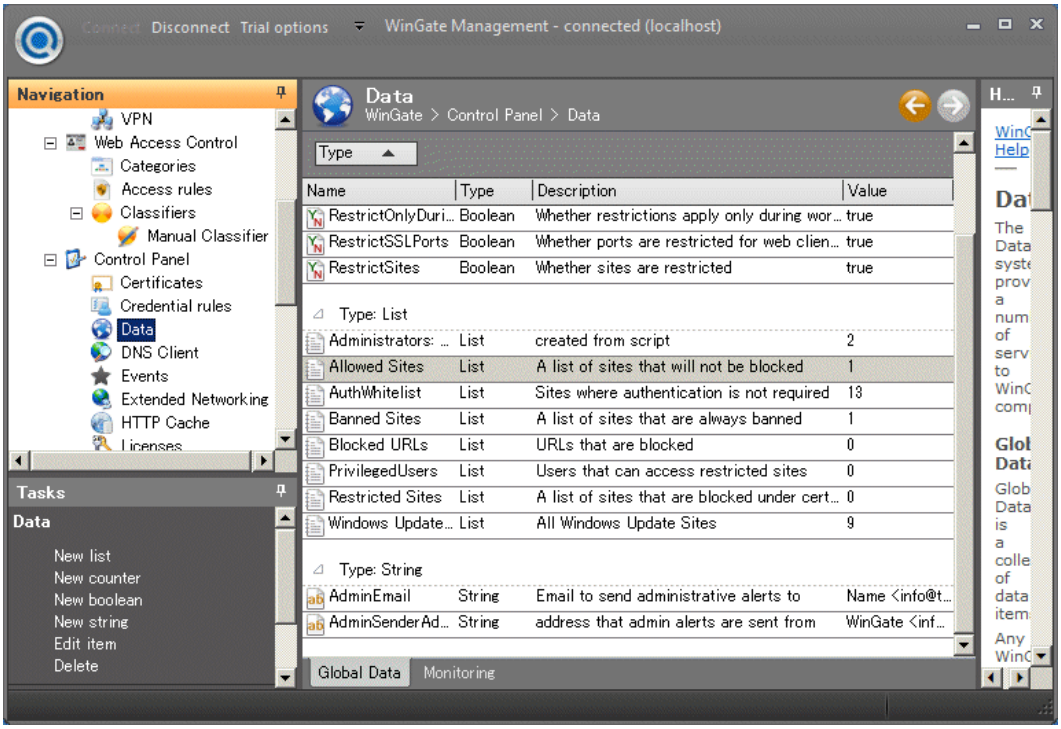
管理者電子メールアドレスへの通知機能を利用しない場合

Policy の太字で表示されている「Notification handler」を選択し、右クリックで Delete Policy を選択して、このポリシーを削除してください。

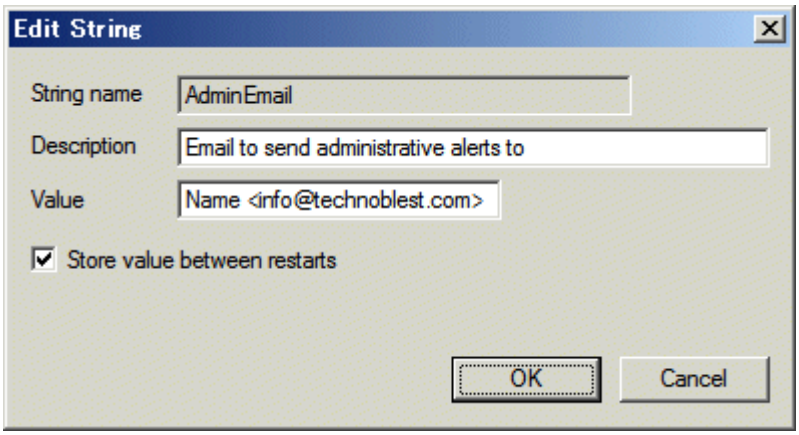
管理者電子メールアドレスへの通知機能を利用する場合

WinGate Management の Navigation から Data をクリックします。

下のタブで Global Data を開きます。



Type: String にある AdminEmail をダブルクリックで開きます。



Value（値）の欄に送信先の電子メールアドレスを入力します。

（Store value between restart をチェックした場合、設定内容は WinGate を再起動するまで適用されません。

同様に AdminSenderAddress をダブルクリックし、送信元の電子メールアドレスを入力します。

実際に通知を受け取るには、Wingate Email 機能でメールサーバーの機能を設定する必要があります。

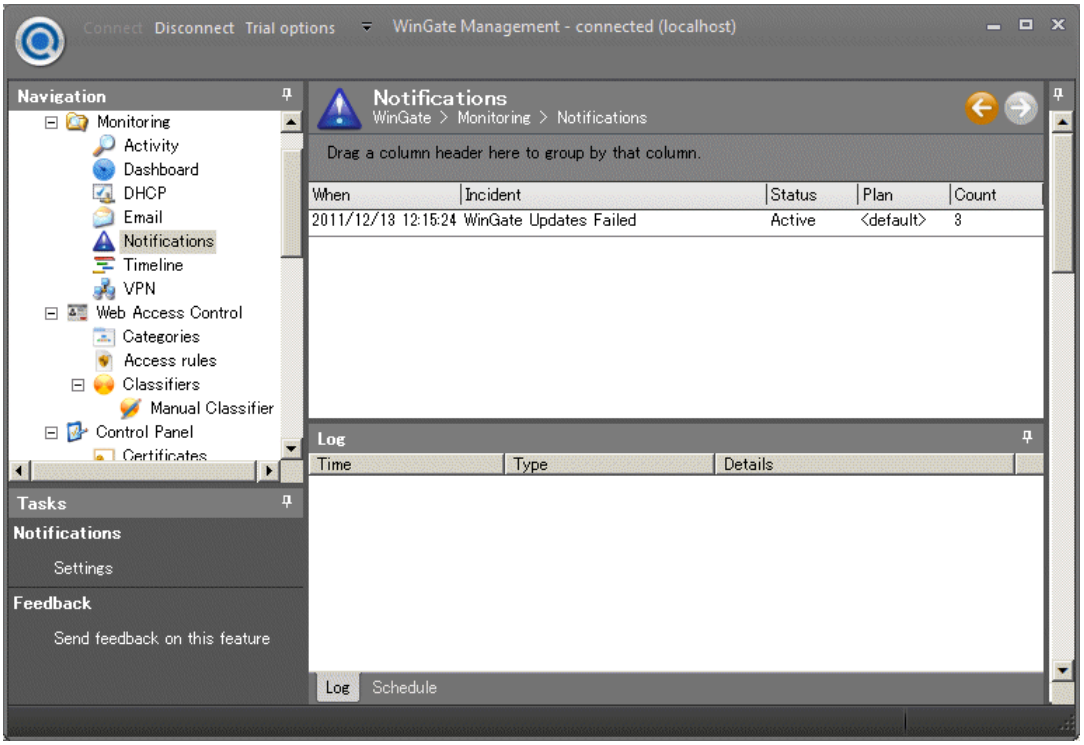
Notifications の処理について

WinGate で通知があった場合、WinGate Management へログイン後、左上のアイコンが赤く点滅し通知があることを知らせます。

その場合、Notifications を開くことで赤い点滅は終了しますが、次回ログイン時に同様の警告が通知されます。

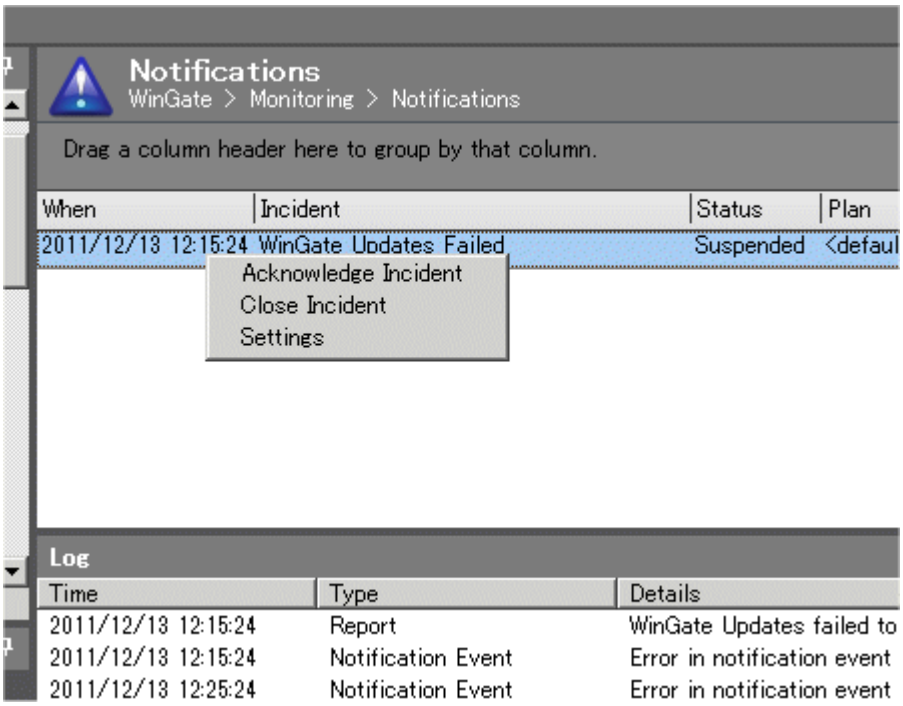
通知内容を把握した場合、以下の方法で通知を消すことができます。

Notifications を開きます。



表示されている通知を確認します。

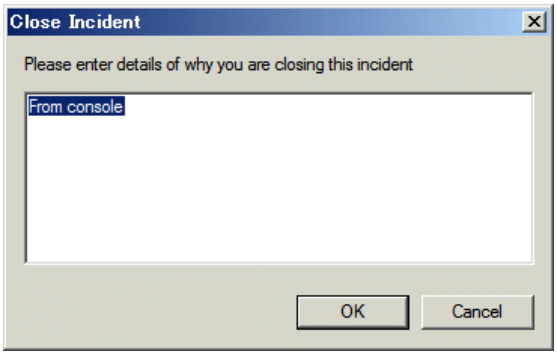
表示されている通知を選択して、右クリックします。



上記のメニューが表示されます。

Acknowledge Incident（承認したインシデント） この通知内容を承認し、表示に残す場合は、これを選択してください。

Close Incident（インシデントを閉じる） この通知内容を閉じる場合は、これを選択してください。



Close Incident ダイアログが表示されますので、閉じる理由を入力してください。
選択した場合、通知内容は WinGate Management から消去されます。

使用しない機能の停止

お客様の環境によっては、WinGate の持つ機能で必要としない機能があるかもしれません。WinGate を使用する目的に合わせて、使用しない機能を停止してください。
代表的な例といたしましては、以下の機能がございます。

- 使用しないポリシーの削除
  WinGate のポリシー（Policy）は、幾つかのサンプルを持ちます。ポリシーの構成を行わない場合などは、これらのサンプルポリシーを削除いただくことができます。
  ポリシーの削除は、削除するポリシーを選択して Delete Policy を選択することで行えます。

- HTTP Cache（HTTP キャッシュ）
  HTTP キャッシュ機能は、WinGate の WWW Proxy Server 機能でリクエストされた内容をキャッシュし、同じリクエストがあった場合に、キャッシュ情報を利用して Web 表示の高速化を図る機能となります。
  この機能を必要としない場合は、HTTP Cache の Settings 画面より機能を（Enable Cache）無効としてください。

- Timeline（タイムライン）機能
  タイムラインは、WinGate Management 内でグラフにより WinGate を経由した Web アクティビティ（WWW Proxy の使用）を表示する機能となります。
  デフォルトでは、タイムライン機能は、データーベースに MDB を使用するため大規模な環境では、WinGate に高い負荷を与える場合がございます。
  大規模な環境では、タイムライン機能を停止、タイムライン・データーベースにサード パーティー製のデーターベースを使用、またはタイムラインのパージ間隔を短くしていただくことをお勧めいたします。
  この機能を使用する必要のない場合、Timeline Settings より Tracking する Activity 項目を全て解除していただく事により事実上、機能を無効化していただくことができます。

WinGate 設定例

この章では、基本的な設定をご照会しております。

クライアント PC から WWW Proxy Server を使用して Web サイトを参照

クライアント PC のブラウザでプロキシサーバーの設定を行い、WinGate の WWW Proxy Server をプロキシサーバーとして使用する場合の例となります。

この構成は NIC が 1 枚、または 2 枚でも利用できます。

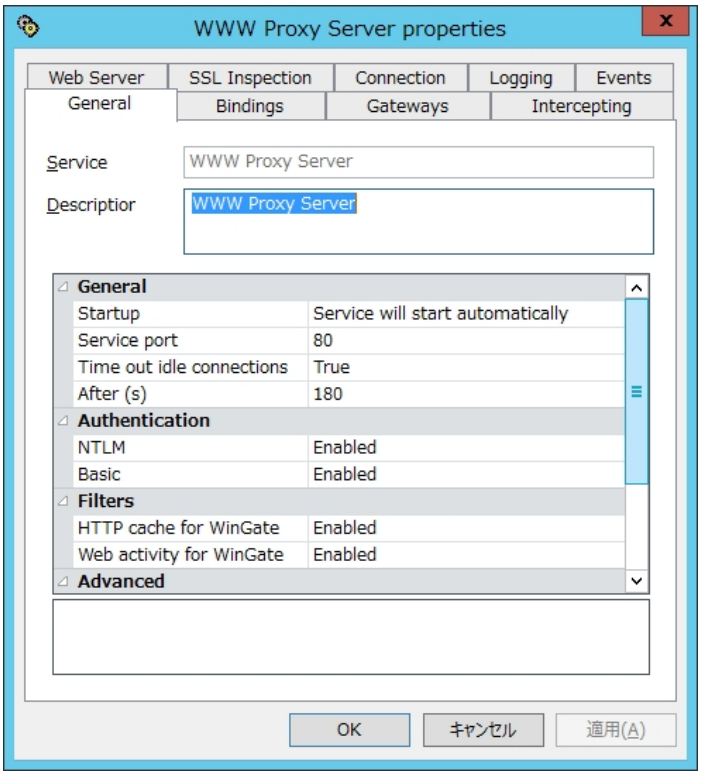
1. WinGate をインストールします。

   ご注意：WinGate の NAT 機能、ファイアウォール機能を使用しない場合は、インストール時に WinGate Network Driver をインストールしないでください。

   インストール時には、最低限 WinGate services、および WinGate Management が選択されている必要があります。

2. WinGate Management へログインします。

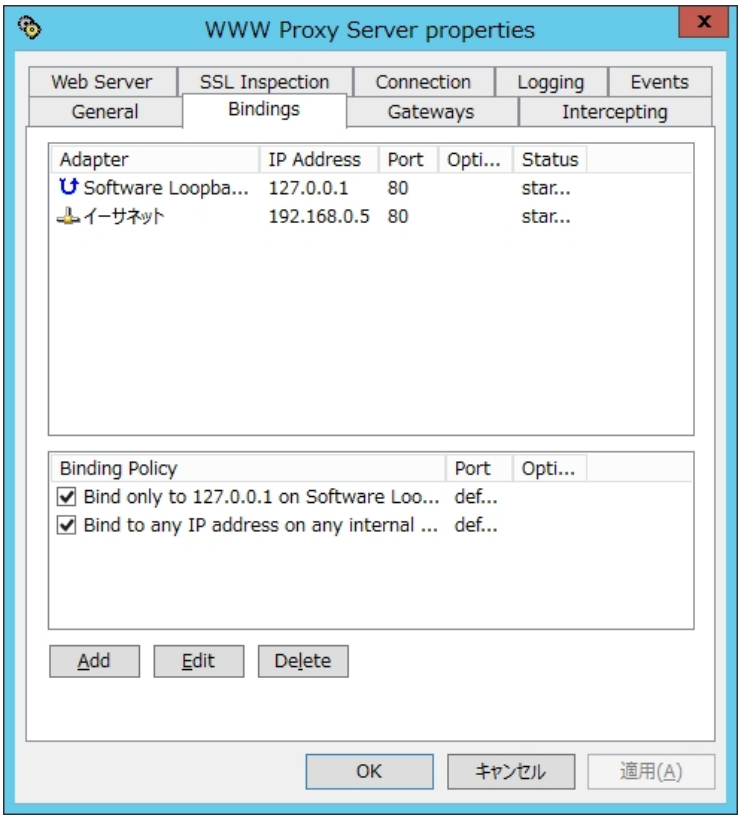
3. WinGate Management の Navigation から Services を選択し、WWW Proxy Server をダブルクリックし WWW Proxy Server property ダイアログを開きます。



   WinGate の WWW Proxy Server は、デフォルトではポート 80 番にて接続を受け付けるように設定されています。

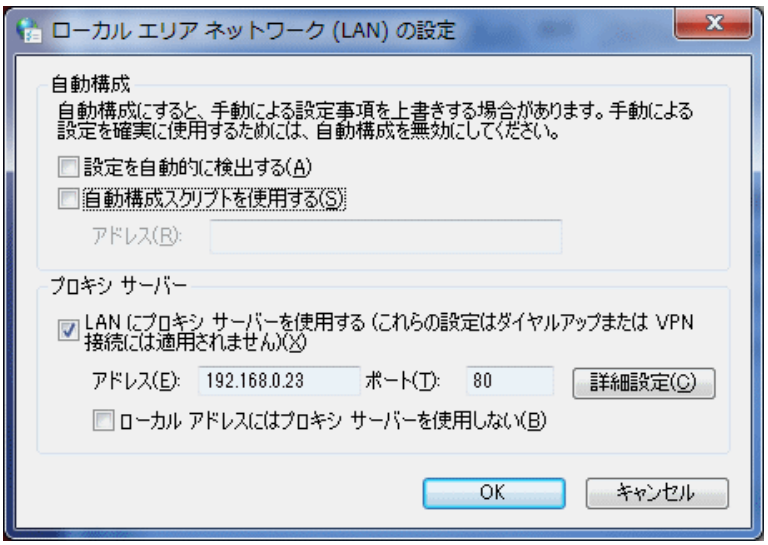
   このポートを変更するには、上記の General タブ Service port でポート番号を変更してください。

4. 続いて接続を受け付けるインターフェース設定角にするために Binding タブを選択します。



上記の欄に表示されているインターフェースが接続を受け付けるインターフェースとなります。
接続を受け付けるインターフェースが正しいかをご確認ください。
変更する場合は、Binding Policy を必要に応じて変更してください。

5. クライアント PC のブラウザでプロキシサーバーを使用する設定を行ってください。
   Windows の場合、コントロール・パネル、インターネットオプション、接続タブ、LAN の設定ボタンより表示されるローカルエリア　ネットワーク（LAN）の設定ダイアログよりプロキシサーバーの設定を行うことができます。



6. クライアント PC のブラウザを起動し、Web ページの参照が行えるかを確認します。

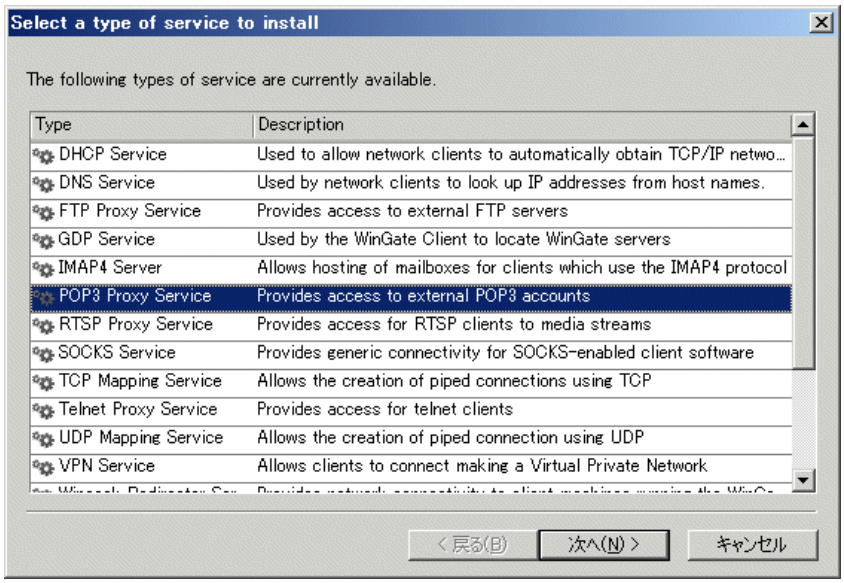
WinGate のプロキシ機能を使用してメールの送受信を行う（POP3 Proxy、TCP Mapping）

ご注意：WinGate が持つ SMTP Server、POP3 Server 機能は、メールサーバー機能となります。これらの Server 機能は、プロキシ、マッピングサービス機能とは異なります。SMTP Server では、WinGate が SMTP Server として動作し直接メールの配信・受信を行いますのでご注意ください。

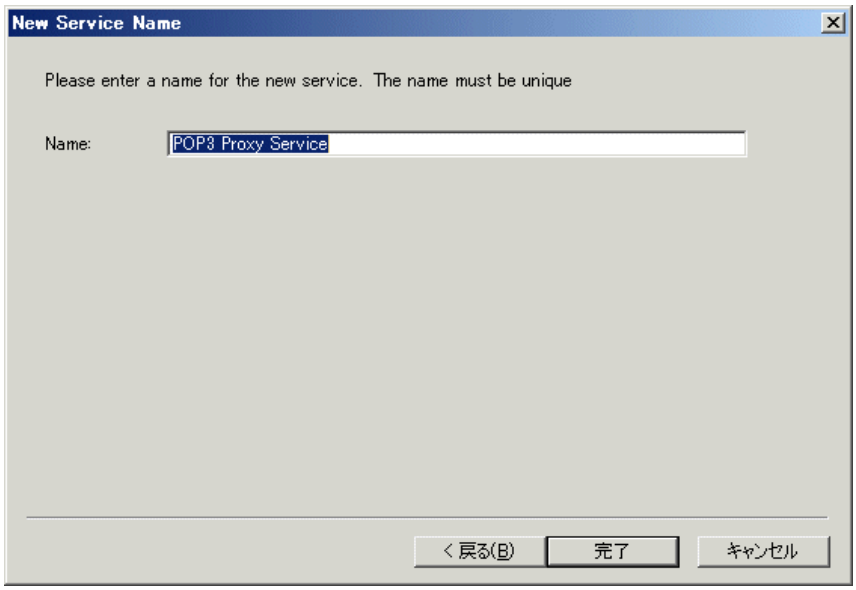
WinGate のプロキシ・サービスを利用してメールの送受信を行う場合、WinGate の POP3 Proxy Service と TCP Mapping Service を使用します。

メールの受信には POP3 Proxy Service を使用します。

POP3 Proxy Service は、デフォルトでは追加されていないため WinGate Management の Navigation、Services の Tasks から Install Service を選択して Select a type of services to install（インストールするサービスのシュルを選択）らか POP3 Proxy Service を選択します。



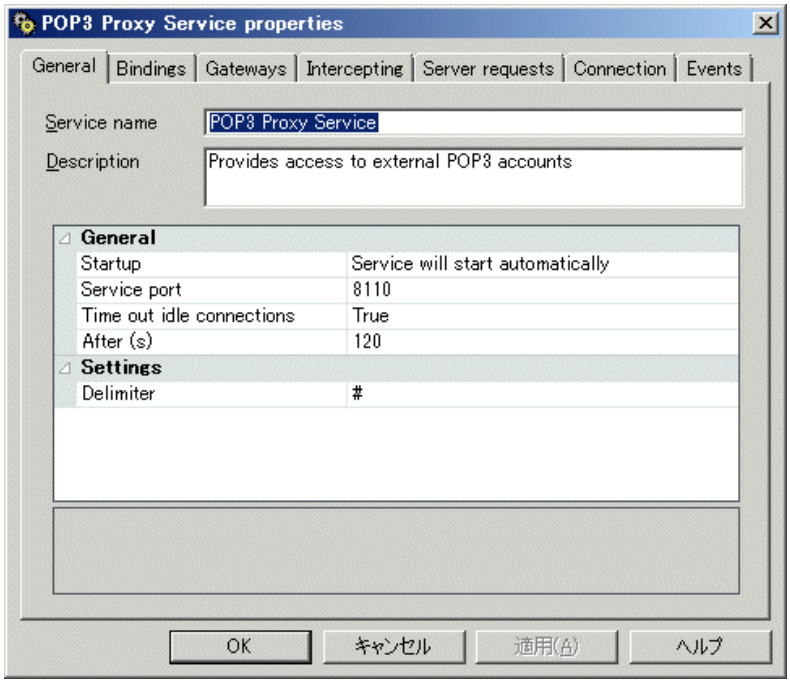
次へボタンをクリックします。



必要に応じて Name（名前）変更してください。

完了ボタンで終了します。

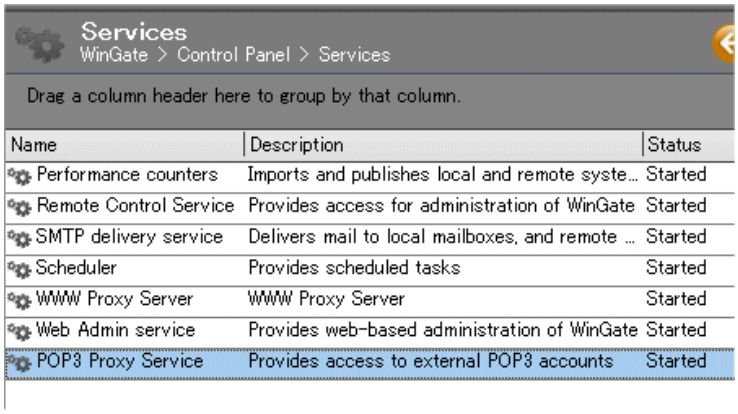
POP3 Proxy Service property ダイアログが表示されますので、必要な設定を確認します。



デフォルトでは Service port に 8110 が割り当てられていますので、必要に応じて変更してください。(一般的には POP3 のポートとして 110 が使用されます。)

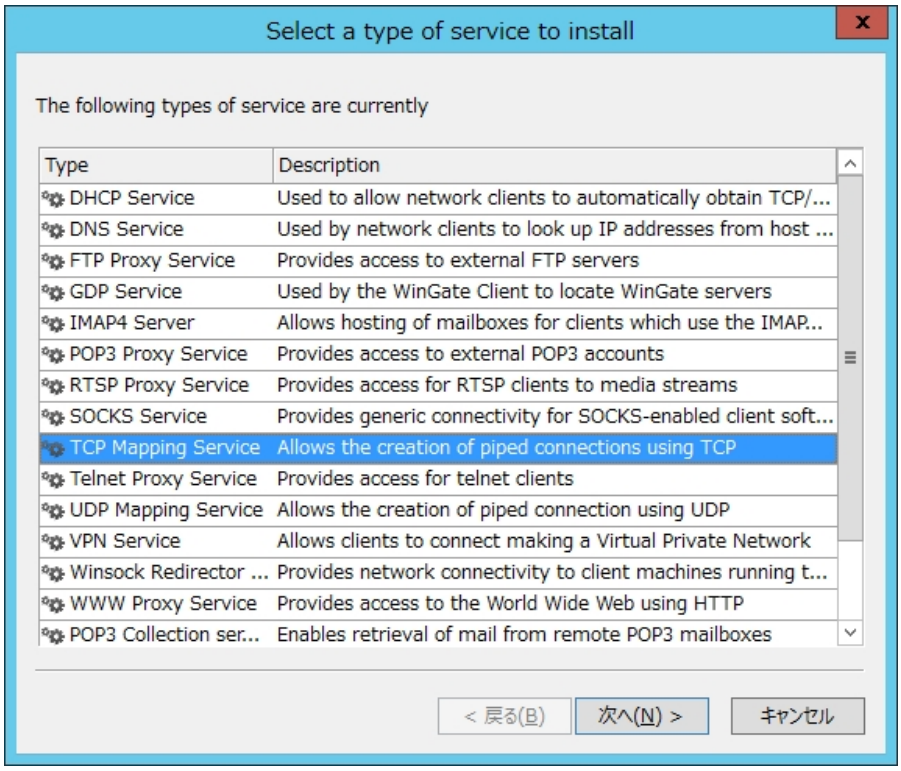
また、Binding タブで接続を受け付けるインターフェースの確認を行ってください。

OK ボタンで終了すると Services に POP3 Proxy Service が追加されます。

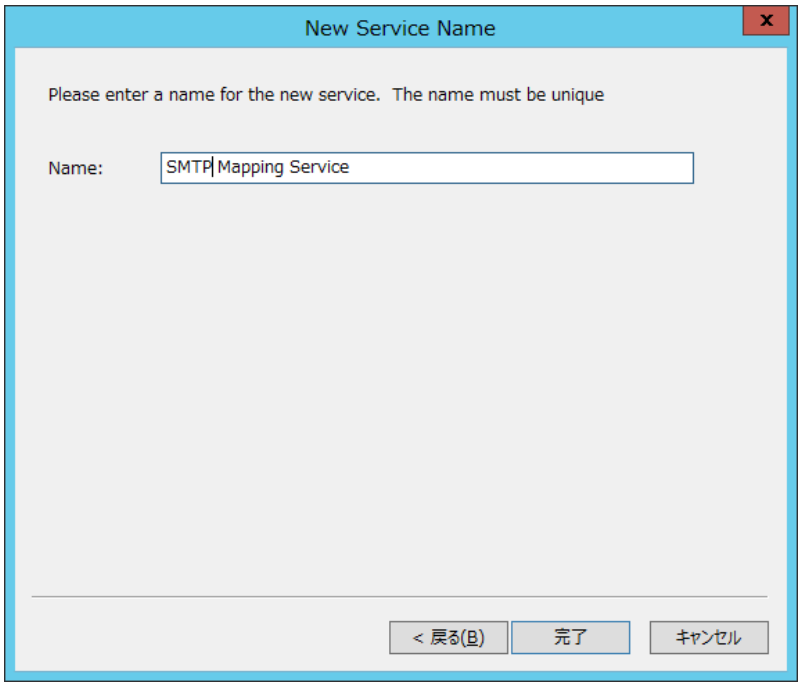


メール送信に使用する TCP Mapping Service の追加を行います。

WinGate Management の Navigation、Services の Tasks から Install Service を選択して Select a type of services to install(インストールするサービスのシュルを選択)らか TCP Mapping Service を選択します。

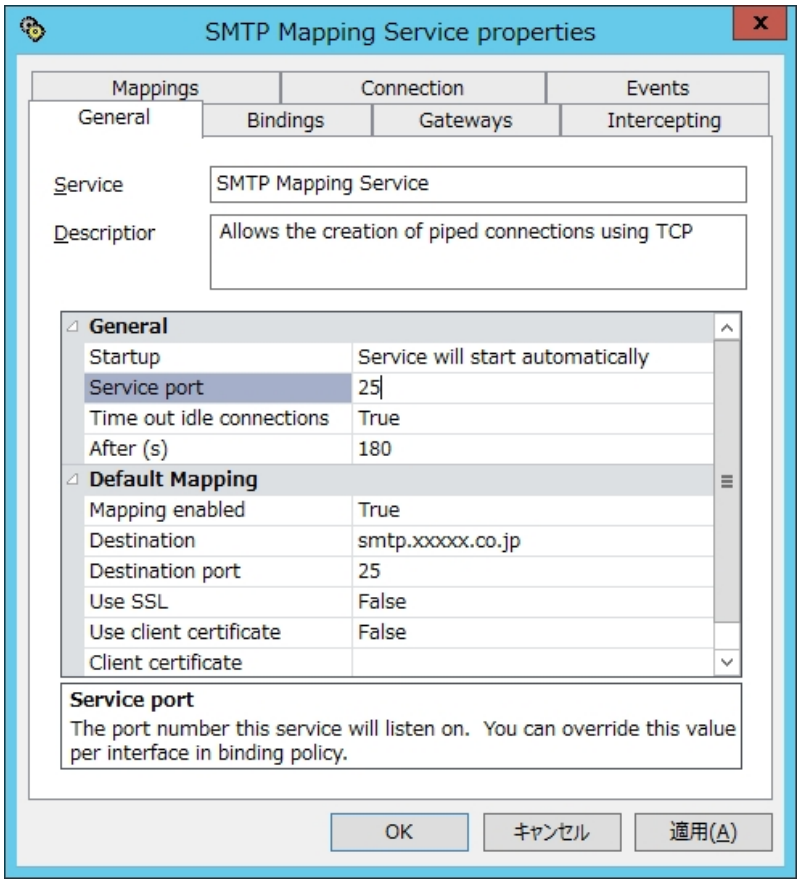


「次へ」をクリックします。



Name（名前）をわかりやすいように、SMTP Mapping Service などに変更し、完了ボタンをクリックします。

SMTP Mapping Service ダイアログが表示されます。



SMTP に使用するサービスとなるため、WinGate で接続を受け付けるポートを Service port で指定します。一般的に SMTP には 25 ポートが使用されます。

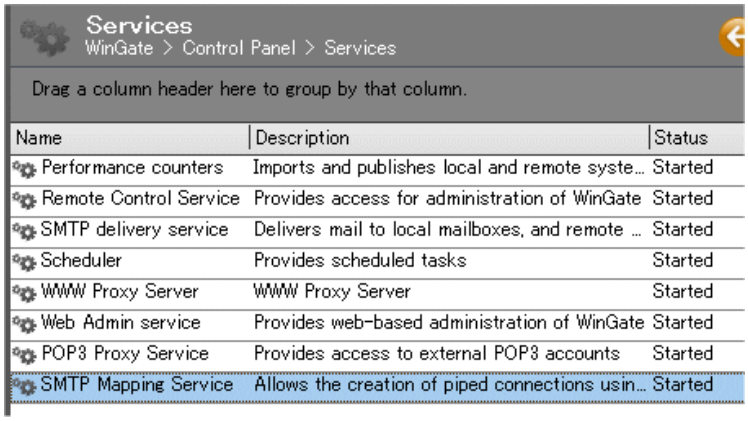
メール配信に利用する外部の SMTP サーバーを Destination（ディストネーション）欄に入力します。

また、その配信に使用する外部 SMTP サーバーが接続を受け付けるポートを Description port 欄で指定します。

一般的にこれは 25、または 587（サブミッションポート）かもしれません。

このサーバーへのマッピングを行うために Mapping enabled のドロップダウン・メニューTrue を選択します。

OK ボタンで終了すると Services に SMTP Mapping Service が追加されます。



以上で WinGate の設定は完了となります。

メールクライアントで、これらのサービスを使用したメール送受信を行うための設定をします。

Outlook Express の設定は以下の通りとなります。

1.ツールメニューの「ツール」から「アカウント」を選択し、インターネットアカウントダイアログを開きます。

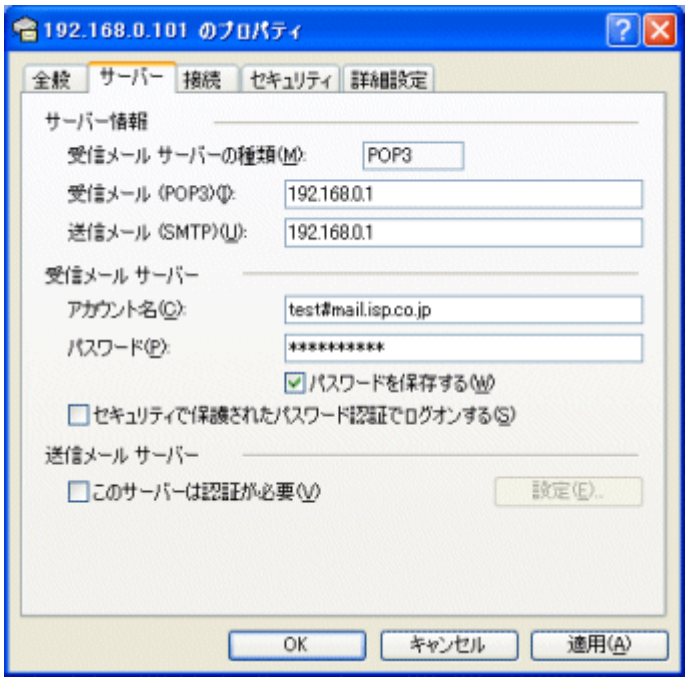
2.「メール」タブを開きます。ここで既にアカウントが作成されている場合、アカウントを選択して、「プロパティ」ボタンをクリックします。まだ設定していなければ、「追加」ボタンのメニューから「メール」を選択します。

3.プロパティ画面の「サーバー」タブで以下の設定を行います。

「送信メール」欄、「受信メール」欄には、WinGate サーバーの接続を受け付けている IP アドレス(192.168.0.1 等)を入力します。

「受信メールサーバー」欄では「次のアカウントとパスワードでログオンする」を選択し、「アカウント名」欄には「(プロバイダのアカウント)#(プロバイダのメールサーバー名)」、「パスワード」欄はプロバイダから受けたパスワードを記入します。

以下のスクリーンショットをご参照ください。



受信メール、送信メールサーバーに WinGate の IP アドレス、受信メールサーバーのアカウント名を**アカウント名#メールサーバー(user#mail.isp.co.jp)と設定する事に注意してください。**

4.OK ボタンでダイアログを終了します。

以上で、WinGate の POP3 プロキシ、SMTP マッピングを使用する構成は完了となります。

その他のアプリケーションのプロキシ設定に関しては、各ソフトウェア開発元にご確認ください。

メール送信に認証(SMTP 認証)を必要とする場合、メールクライアントにて認証の設定を行ってください。WinGate は、メールクライアントの認証情報を持ちません。

設定完了後は、利用するメールクライアントよりメールの送受信を行い、動作をご確認ください。送受信が正しく行えない場合は、送信のみ、受信のみを行い、どちらが正しく行えていないかをご確認ください。

Extended Networking（拡張ネットワーク）の NAT を使用する方法

NAT を使用するクライアントの構成は非常に簡単です。クライアントマシンの TCP/IP 設定でデフォルトゲートウェイに WinGate の内部側 NIC の IP アドレスが指定されている場合に利用可能となります。

NAT は、ほとんどのアプリケーションとの互換性をもっており、クライアントマシンで特に設定変更を行うことなくインターネット・アプリケーションをご使用いただく事ができます。

クライアントマシンのインターネット・アプリケーションではインターネットへ直接接続する設定がされていれば、ご使用いただく事ができます。

クライアントマシンの構成では先に記述いたしました DHCP、ゲートウェイの設定にご注意ください。

また、管理者は NAT のセッションを WinGate 各プロキシ・サービスのインターセプト機能を使用して、WinGate 内部のプロキシサーバーにリダイレクトすることができます。

※NAT 機能を使用するには、Extended Networking がインストールされていて、NIC2 枚構成が必要となります。

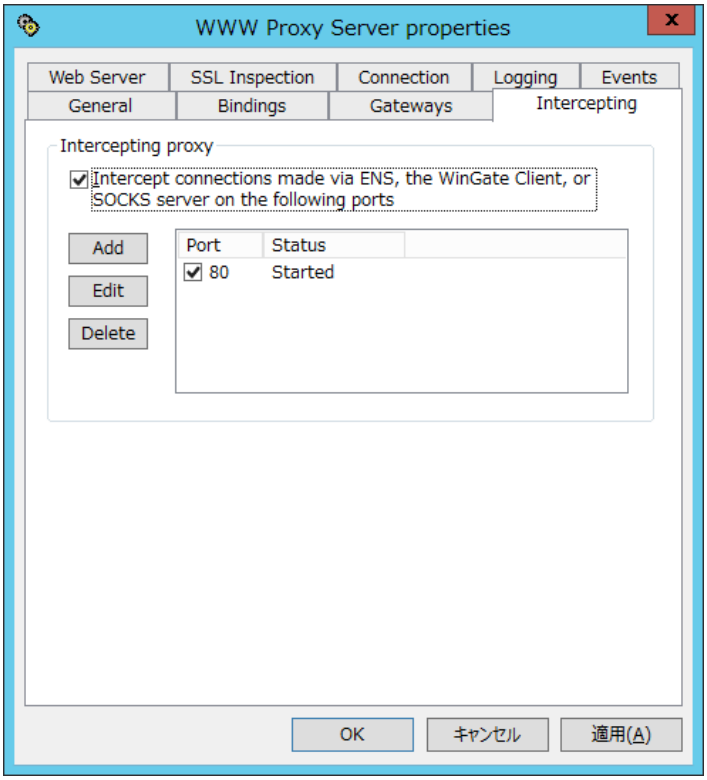
※インターセプト・プロキシとは？

Intercepting は、NAT、WGIC、Socks サーバーの接続を WinGate 内部で WinGate の各プロキシサーバーがインターセプトする機能です。

この機能により、クライアントマシンは NAT、WGIC を使用して接続を行っていても、WinGate の内部で各プロキシサーバーにリダイレクトされるため、各クライアント PC はプロキシ使用を意識することなく、各プロキシサーバーの機能を使用することができます。

インターセプト・プロキシの利点は NAT、WGIC を使用しているユーザーが意識する事無くプロキシの機能を使用していることです。これにより各プロキシでしか利用できない機能（例：WWW プロキシのキャッシュ機能など）や各プロキシでのポリシーをクライアントマシンに意識させる事なく使用させることができる事です。

NAT を使用している場合では、クライアントマシンは、全く意識する事無く WinGate を使用する事ができますが、使用するセッションの内容によっては、必要な WinGate のプロキシにリダイレクトされ、WinGate のプロキシサーバーで設定されている制限事項を適用されている事になります。また、WinGate のアンチウイルス・プラグインは、各プロキシ・サービスにプラグインされるため、トランスペアレント・リダイレクションを使用する事により、NAT、WGIC のセッションを各プロキシへリダイレクトされることにより、有効となります。（アンチウイルス・プラグインについては、弊社 Web サイトをご参照ください。）



Intercepting は以下のプロキシサーバーでご使用いただく事ができます。
WWW Proxy（ポート 80）、POP3 Proxy（ポート 8110） ※ポートは何れもデフォルトで使用されるポートです。

WinGate は、WinGate クライアントコンピュータからのリクエストに対して、それぞれのインターネット・リクエストで使用されるポートによってどのサービスを経由されるべきであるかを決定することができます。つまり、WinGate の WWW プロキシでインターセプト・プロキシが設定されていると、NAT による接続でポート 80 でのリクエストが行われた場合、WinGate は NAT の接続をインターセプトして、自身の WWW プロキシへリダイレクト（転送）します。

WinGate の NAT を使用している環境での WWW プロキシを例にすると、クライアントマシンは WinGate の NAT を使用することにより、インターネット・アプリケーションではプロキシを使用する設定を行うことなく、Web へのアクセスを行っています。
しかし、WinGate の管理者は Web アクセスへのログ管理（※1）、WWW プロキシでのユーザー制限、多段プロキシ等の WWW プロキシのみでサポートする内容をクライアントマシンに利用させたいと考えています。
この場合、以前はクライアントのブラウザでプロキシ設定を行う必要がありました。
トランスペアレント・リダイレクトを設定することにより、NAT のポート 80 を使用する接続は、自動的に WinGate の WWW プロキシへリダイレクトされます。リダイレクトされたセッションは WWW プロキシによって処理がされるため、WWW プロキシの機能（キャッシュ、ポリシー等）やログ情報が全て適用されます。
クライアントマシンはプロキシの使用を一切意識することはありませんが、実際は WinGate のプロキシを使用している事となるのです。

トランスペアレントが設定されていない、またはトランスペアレントの対象とならない接続に関しては、NAT、WGIC、SOCKS によってそのまま処理がされますので、トランスペアレントによる利用できないアプリケーション等の問題は、ほとんど発生することはないでしょう。

WinGate 設定情報の保存と復元

WinGate Configuration Utility をご利用いただことにより WinGate の設定情報を容易に保存、復元いただくことが可能となります。

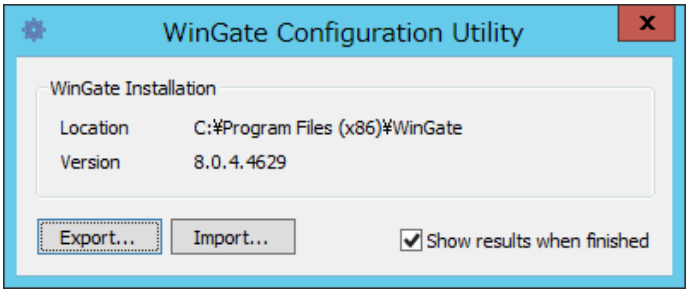
WinGate Configuration Utility は、64bit、32bit 環境に依存せずご利用いただくことができます。

ご注意:WinGate Configuration Utility で保存される内容は、WinGate の設定情報のみとなります。ログ情報や WinGate メールサーバーのメッセージなどは保存されません。WinGate の設定以外の情報については、個別に手動でバックアップしてください。

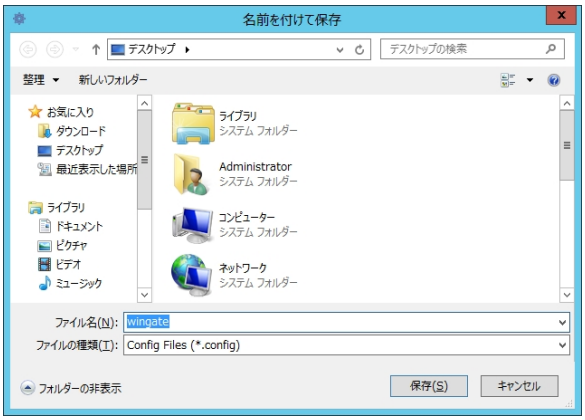
ご注意:WinGate Configuration Utility で設定をエクスポート/インポートする際は、WinGate を停止いただく必要がございます。WinGate を停止せずに、これらの操作を行った場合、予期しない結果を生じる場合がございます。

WinGate Configuration Utility を使用した設定情報のエクスポート手順

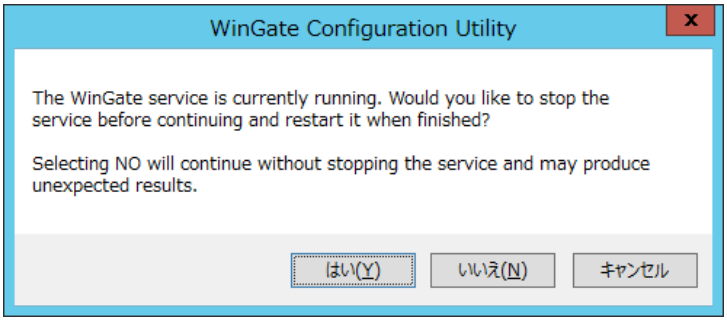
1. WinGate エンジンを停止します。
2. Windows スタートメニュー、全てのプログラム、WinGate より WinGate Configuration Utility を選択します。
3. WinGate Configuration Utility ダイアログが表示されます。



4. Export ボタンをクリックします。
5. 名前を付けて保存ダイアログが表示されますので、ファイル名、保存場所を指定して「保存」ボタンをクリックします。



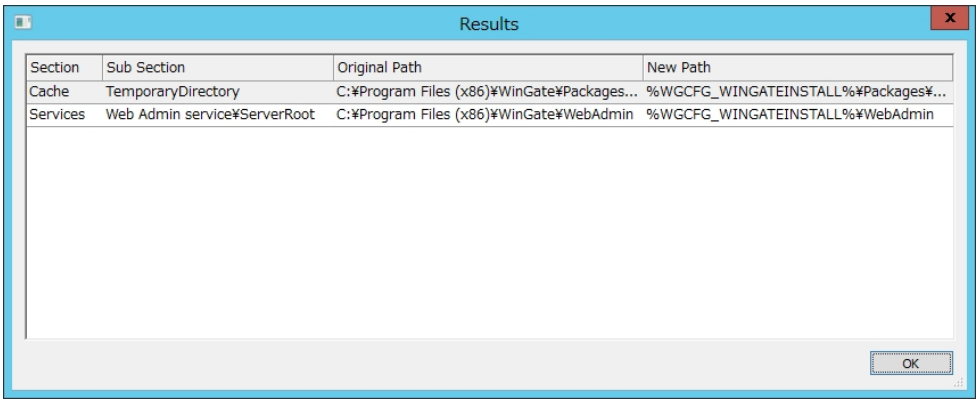
WinGate エンジンが停止されていない場合、以下のダイアログが表示されます。



「はい」を選択した場合、WinGate Configuration Utility は、WinGate エンジンを停止し、エクスポート完了後に自動的に WinGate エンジンを開始します。

「いいえ」を選択した場合、WinGate Configuration Utility は、WinGate エンジンを停止せずにエクスポートを行いますが、この場合予期しない結果を生じる場合がありますので、「はい」を選択して WinGate エンジンを停止してエクスポートを行っていただくことをお勧めいたします。

6. エクスポートが開始され、指定した場所にファイルが保存されます。(WinGate エンジンが停止されていない場合は、WinGate エンジンの停止、エクスポート、WinGate エンジンの開始の順番に実行されます。)
7. Show results when finished が選択されている場合、完了後に Result ダイアログが表示されます。



OK ボタンで Result ダイアログを終了してください。

8. ダイアログ右上の閉じるより WinGate Configuration Utility ダイアログを終了してください。

以上で WinGate Configuration Utility を使用した WinGate 設定のエクスポートは完了となります。WinGate Configuration Utility を実行いただく前に、手動で WinGate エンジンを停止いただいております場合は、WinGate エンジンを開始してください。

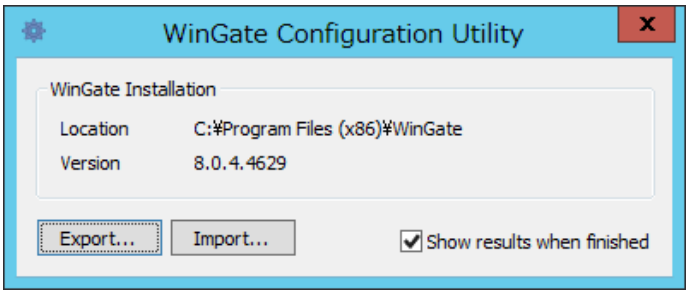
WinGate Configuration Utility を使用した設定情報のインポート手順

ご注意:

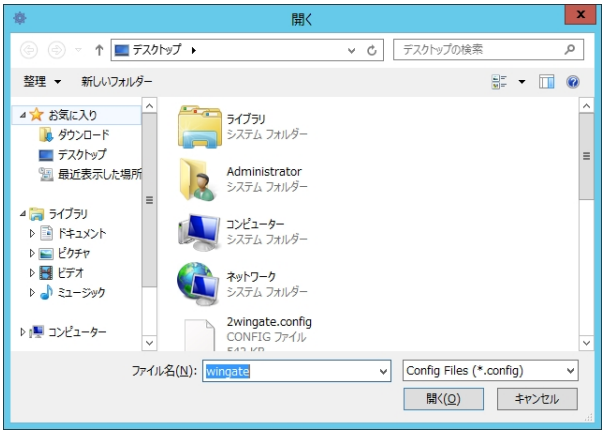
- WinGate の設定情報は、保存されている設定内容に全て上書きされます。必要に応じて、現在の設定情報を事前にバックアップ(エクスポート)してください。
- WinGate のインストールが、保存されている設定ファイルのインストール環境と同一であることを確認してください。
- WinGate ユーザーデーターベースを使用してル場合、Administrator パスワードやユーザー情報も保存されているファイルの状態へと復元されます。
- WinGate Configuration Utility は、Windows のネットワーク接続、NIC のプロパティにある、WinGate Network Driver の状態を復元いたしません。必要に応じてインポート後に WinGate Network Driver の有効/無効を

Windows のネットワーク接続、NIC のプロパティより確認、および設定してください。

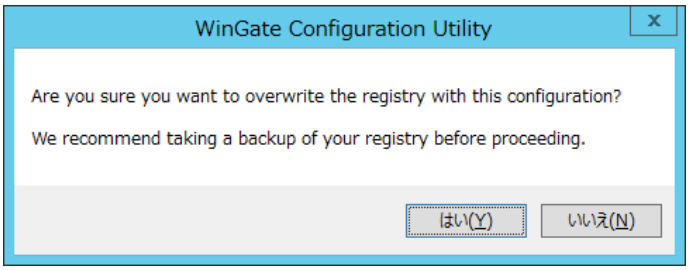
1. WinGate エンジンを停止します。
2. Windows スタートメニュー、全てのプログラム、WinGate より WinGate Configuration Utility を選択します。
3. WinGate Configuration Utility ダイアログが表示されます。



4. Import ボタンをクリックします。
5. 開くダイアログが表示されますので、インポートする WinGate の構成ファイル（xxxxx.config）を指定して「開く」ボタンをクリックします。

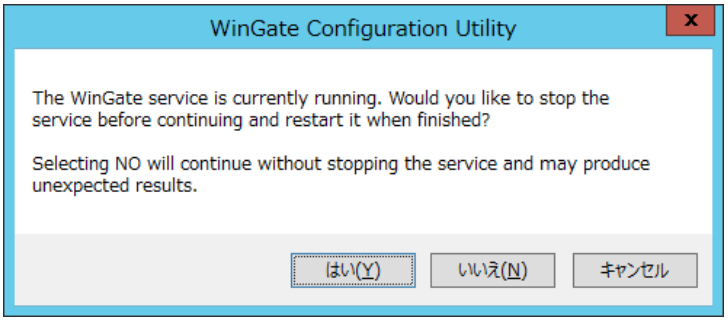


6. 確認ダイアログが表示されます。



インポートするファイルが正しい場合、「はい」をクリックします。

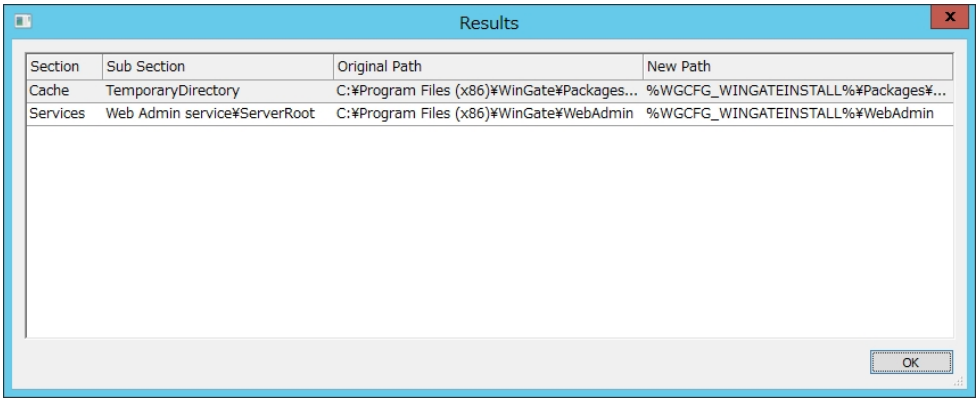
WinGate エンジンが停止されていない場合、以下のダイアログが表示されます。



「はい」を選択した場合、WinGate Configuration Utility は、WinGate エンジンを停止し、インポート完了後に自動的に WinGate エンジンを開始します。

「いいえ」を選択した場合、WinGate Configuration Utility は、WinGate エンジンを停止せずにインポートを行いますが、この場合予期しない結果を生じる場合がありますので、「はい」を選択して WinGate エンジンを停止してインポートを行っていただくことをお勧めいたします。

7. インポートが開始されます。（WinGate エンジンが停止されていない場合は、WinGate エンジンの停止、インポート、WinGate エンジンの開始の順番に実行されます。）
8. Show results when finished が選択されている場合、完了後に Result ダイアログが表示されます。



OK ボタンで Result ダイアログを終了してください。

9. ダイアログ右上の閉じるより WinGate Configuration Utility ダイアログを終了してください。

以上で WinGate Configuration Utility を使用した WinGate 設定のインポートートは完了となります。
WinGate Configuration Utility を実行いただく前に、手動で WinGate エンジンを停止いただいております場合は、WinGate エンジンを開始してください。
WinGate エンジン開始後は、WinGate Management を開始して、設定情報が正しくインポートされているかをご確認ください。

WinGate のアクティベーションについて

WinGate をご使用いただくには、何らかの方法で必ずアクティベートを行っていただく必要があります。
アクティベートを行わない限り WinGate をご使用いただく事はできません。（試用版につきましても試用版のライセンス情報を有効にするために、アクティベートを行っていただく必要があります。）

アクティベートはインターネット、又はブラウザを使用して行っていただく事ができます。
多段プロキシ環境などでも、インターネットを通じたアクティベーションを行っていただくことができます。（WinGate のアクティベーションは、インターネットエクスプローラで指定されているプロキシ設定を使用いたします。）
インターネットを使用したアクティベートでは、問題がない場合は、すぐにアクティベートが行われライセンスが有効となります。
インターネットを通じたアクティベーションを行っていただくことをお勧めたします。

アクティベーションは 1 ライセンスで、1 つまで許可されるため、1 つのライセンスキー情報で重複したアクティベートを行うことはできません。

WinGate マシンの移行などによりライセンスキー情報を移行する場合は、必ず WinGate Management の Licensing より、デアクティベート（アクティベーション情報の解除）を行ってください。これを行わない場合、アクティベートした情報が残されたままとなり、そのライセンスキー情報を移行先のマシンでアクティベートすることができません。

ハードウェア、OS トラブル時などの WinGate アクティベーション情報の解除

ハードウェアの故障など何らかの理由によりデアクティベートが不可能となりました場合は弊社サポートまで
以下の情報をお書き添えいただき電子メールをお送りください。アクティベート情報の解除を手動にて対応させていただきます。**※対応は弊社営業日、営業時間内となります。**

- お名前、ご連絡先（法人様の場合は、会社名）
- 電話番号
- 電子メールアドレス
- ご購入日、ご購入店名
- ライセンス登録名、ライセンスキー情報

通常のメンテナンス

WinGate は、一旦設定が完了いたしますとバックグラウンドで動作するため管理する機会が少なくなる場合がございます。

弊社では、WinGate のご運用をいただきます場合、以下の内容を定期的に確認いただくことをお勧めいたします。

- **定期的に WinGate Management へログインしてください。**

  WinGate Management に定期的にログインいただく事で WinGate の状態や通知メッセージを確認いただくことができます。

  通知メッセージには、最新バージョンのご案内やアップグレード保証の期限に関する情報が通知されることがあります。

  定期的に WinGate Management へログインいただく事で、これらの情報をご確認いただくことができます。

- **WinGate 最新バージョンの確認・アップグレード**

  WinGate Management の WinGate Update は、デフォルト設定で定期的に最新バージョンのチェックを行います。最新バージョンでは、バグ修正や機能追加が行われますので、可能な限り最新バージョンをご利用ください。

  最新バージョンのリリース情報については、弊社 Web サイトでもご案内しております。

- **ディスク容量の確認**

  WinGate は、キャッシュファイルやログ情報の保存にディスクを使用いたします。

  デフォルトでは、ログ情報は一定の期間で削除されますが、ご利用いただいております環境やログ保存期間の設定によっては、ログ情報によりディスク容量の不足を招く場合がございます。

  定期的に WinGate サーバマシンにアクセスいただき、ハードディスクの空き容量をご確認ください。

トラブルシューティング

WinGate をご利用いただきました際に問題が発生いたしました場合のトラブルシューティング事例をご紹介しております。

WWW Proxy を使用して Web サイトが表示できない

このような問題が発生した場合、WinGate 自体に問題が発生しているか、インターネット接続に問題が発生しているかをご確認いただき、原因の切り分けを行うことができます。

幾つかの確認方法がございますが、最も容易な方法として以下の内容をご確認ください。

原因の切り分け方法

WinGate サーバー マシンからのインターネット接続に問題が発生していないかをご確認ください。

最も簡単な方法は、WinGate サーバー マシンがインターネット接続を持つ場合、WinGate サーバー マシンのブラウザから Web サイトへの接続を確認する方法となります。

通常 WinGate がインストールされているマシンのブラウザは、WinGate に依存することなく、Web サイトへのアクセスを行えることが考えられます。(ブラウザのプロキシサーバーで自身をプロキシサーバーとして指定している場合は、これを解除してください。また、多段プロキシ構成が必要となる環境では、上位のプロキシサーバーをブラウザのプロキシ設定で指定してください。)

もし、ブラウザで Web サイトが表示いただけない場合、WinGate サーバー マシンが持つ、インターネット接続に何らかの問題が発生していることが考えられます。

ブラウザで Web サイトが表示いただけました場合、WinGate で何らかの問題が生じていることが考えられます。

その他の確認といたしましては、コマンドプロンプトからの Ping の疎通や nslookup による名前解決の確認などの方法が考えられます。

Windows ファイアウォールやファイアウォール製品で WinGate WWW Proxy Server の接続ポートがブロックされている。この場合、ファイアウォール製品で WinGate が接続受け付けているインターフェース、またはポートを許可する設定を行ってください。

インターネット接続に問題がなく、WinGate の問題である可能性が高い場合

以下の内容をご確認ください。

- WinGate Management の Activity 画面の確認

WinGate Management の Activity には、クライアントマシンからの接続状況がリアルタイムで表示されます。

Activity にクライアント接続が表示されていない場合、WinGate はクライアントからの接続を受け付けていない(受け付けられていない)状態であることが考えられます。

このような場合、WinGate の WWW Proxy Server のプロパティより、Bindings をご確認いただき、WinGate で指定したネットワークインターフェースの IP アドレス、ポートで接続が受け付けられる状態であるかをご確

認ください。
WinGate の設定に問題がなく、クライアントからの接続が行えない場合、WinGate とクライアント間の接続に問題が発生していないかをご確認ください。

- Activity にクライアントが表示されても、クライアントマシンで Web ページが表示されない
  このような場合に考えられる内容は、WinGate の WWW Proxy Server で設定されているゲートウェイ（Gateway）が誤っている（または利用できない）場合や WinGate の DNS Client 設定で設定されている DNS Server で名前解決が行えないことが考えられます。
  これらの設定が適切に行われているかをご確認ください。

その他の現象について

その他 WinGate で発生する現象に関しては、ログファイルに何らかの情報が記録されている場合がございます。
WinGate は、デフォルトで警告やエラーを Global ログファイルに記録いたします。
Global ログファイルは、WinGate インストールディレクトリ、Logs、Global フォルダー内に保存されておりますので、テキストエディタなどを使用して、現象発生時のログファイルにエラーなどが記録されていないかをご確認ください。

より詳細な原因の調査

WinGate は、ネットワークに関連したソフトウェアであるため、問題が発生した場合の原因がより複雑である場合があります。
発生した問題を調査するためには、現象のトリガーとなる動作、発生パターン、WinGate の機能として関連する部分が判断できると調査が、よりスムーズに行える場合がございます。また、場合によっては、パケットキャプチャーツールによるパケットデーターの取得を必要とする場合もございます。
また、WinGate が予期せぬ終了をした場合に、WinGate インストールディレクトリ内に、DMP ファイルが作成される場合がございます。
弊社へお問い合わせをいただきます際に、この DMP ファイルをお送りください。

WinGate のパフォーマンスに関するトラブルシューティング

設定やご利用いただく環境により WinGate のパフォーマンスに影響を与える場合があります。

- ログ設定
  WinGate のログ設定（Logging）は、Diagnostic（診断）ログでは、デフォルトで Warning（警告）のみが記録されるよう設定されています。これを Info や Debug（デバッグ）などに変更いただいております場合は、取得するログ情報が増え、WinGate のパフォーマンスに影響を与える場合がございます。

- HTTP Cache（HTTP キャッシュ）
  大きすぎる単一のキャッシュボリュームは、パフォーマンスに影響を与える場合がございます。
  キャッシュの利用状況などを確認しながら適切なキャッシュサイズ、アイテム数などをご検討ください。

- Timeline（タイムライン）
  タイムライン機能は、WinGate Management の Timeline 画面に WWW Proxy Server のトラフィックをユー

ザー毎にグラフ表示する機能を提供します。
これは、SQLite を使用して、情報をデーターベースに格納し、表示を行うため、データーが膨大になった場合などに、WinGate のパフォーマンスに影響を与える場合があります。
Timeline は、デフォルトでは、1 ヶ月以前のデーターを月に一度パージするように設定されていますが、この間隔を短くしていただくことで、Timeline データーベースのサイズを削減いただくことができます。
また、この機能を使用していない場合、Timeline Settings より Tracking する Activity 項目を全て解除していただく事により事実上、機能を無効化していただくことができます。
※タイムライン機能を無効にいただいた場合でも、ログ情報は記録されます。

- 他社アンチウイルス、ファイアウォール製品をご利用いただく場合のご注意
WinGate をご利用いただいております PC を保護するためにアンチウイルス製品をご利用いただきます場合は、WinGate のインストールディレクトリをウイルススキャンの対象外としていただく事を強くお勧めいたします。（ログディレクトリやキャッシュディレクトリを WinGate のインストールディレクトリ以外に設定変更している場合は、それらのディレクトリも対象としていただく事を強くお勧めいたします。）
WinGate は、ログやキャッシュファイルへ正常にアクセスできない場合に、動作に影響を持つ場合があり、アンチウイルス製品のスキャンによりこのような状況が発生する可能性があるためです。
また、アンチウイルス製品に含まれるファイアウォール機能と WinGate の Extended Networking 機能の競合により問題が発生する場合がございます。

- Windows Server 2012 環境で特定の Web サイトで表示の遅延が発生する
Windows Server 2012 の ECN（輻輳情報通知機能）が有効となっており、この影響により特定の Web サイトを表示する際に遅延が発生する場合やファイルのダウンロードで遅延が発生する場合がございます。
本現象が発生いたします場合、Windows Server 2012 で ECN 機能を無効化することで解決いただける場合がございます。
ECN 機能は、以下の手順で無効にしていただくことができます。
※変更の適用について Windows や WinGate の再起動の必要はございません。
※ECN 機能の無効化による影響、および ECN 機能に関する詳細につきましては、サポート対象外となります。
※ECN 機能の詳細に関しましては、マイクロソフト社へご確認ください。
※ECN 機能を必要とする場合は、マイクロソフト社、ネットワーク機器メーカー様へご確認ください。

1. 管理者権限で Windows へログインしていることを確認してください。管理者権限でログインしていない場合は、管理者権限でログインしてください。
2. Windows のスタートメニューを右クリックし「コマンドプロンプト（管理者）」を選択して管理者：コマンドプロンプトを開始します。
3. コマンドプロンプトにて以下のコマンドを実行して TCP グローバル パラメーターの状態を確認します。

   netsh interface tcp show global

   表示される TCP グローバル パラメーターで「ECN 機能」が enabled となっております場合は有効、disabled となっている場合は無効となります。disabled となっている場合は、ECN 機能は無効となっ

ておりますので、この機能の影響ではございません。そのままコマンドプロンプトを終了してください。
enabled となっております場合、以下のコマンドにより ECN 機能を無効化します。

netsh interface tcp set global ecncapability=disabled

正しくコマンドが実行されましたら、再度 netsh interface tcp show global コマンドを実行して 「ECN 機能」が disabled （無効）となっているかを確認してください。
以上で ECN 機能の無効化は完了となります。

ECN 機能を再び有効にする場合は、以下のコマンドを実行してください。

netsh interface tcp set global ecncapability=enabled

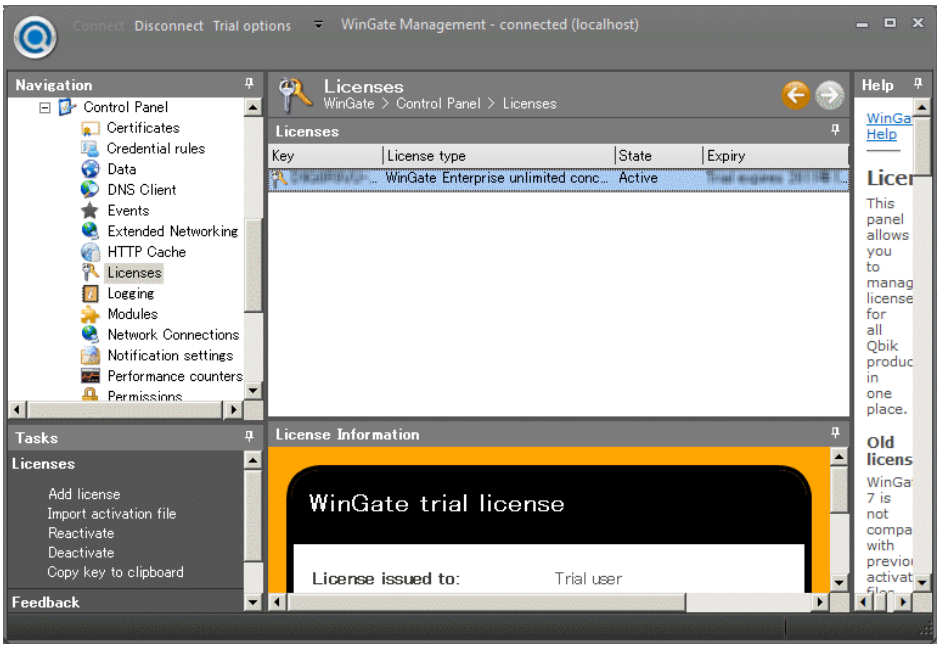
Extended Networking の無効化

WinGate をインストールする際に Extended Networking をインストールした場合、Extended Networking 機能のみをアンインストールすることはできません。
しかしながら以下の方法で無効化することができます。

1. WinGate Management へログインします。
2. Navigation、Control Panel、Extended Networking をクリックし Extended Network Driver ダイアログを表示します。
3. General 内の Status 右にございますボタンをクリックし ENS Driver Boot Control ダイアログを表示し「Do not load ENS driver when system starts」を選択し
   OK ボタンで ENS Driver Boot Control ダイアログを終了し、続いて Extended Network Driver ダイアログを OK ボタンで終了します。
4. WinGate Management を終了します。
5. Windows コントロール・パネルよりネットワークと共有センターを開き、アダプタの設定の変更より接続に使用している NIC のプロパティを開きます。
6. NIC のプロパティダイアログ内に WinGate Network Driver がございますので、 このチェックを外してください。（全ての NIC で同様に WinGate Network Driver のチェックを外してください。また、OS の種類によっては、WinGate Network Driver がない場合がございます。その場合、この操作は必要ありません。）
7. ダイアログを終了し、PC を再起動します。
8. 再起動完了後にネットワーク接続、および WinGate が正しく使用できるかをご確認ください。

アップグレード保証期間の確認

WinGate のアップグレード保証有効期限は、WinGate Management 内の Licensing より確認いただくことができます。



表示されている WinGate ライセンスの Expiry に表示されている日付、またはライセンスを選択すると下の License Information 内に有効期限の情報が表示されます。

Kaspersky AntiVirus for WinGate の購読期限についても、同様に確認いただくことができます。

アップグレード保証更新、Kaspersky AntiVirus for WinGate の購読期限更新の適用

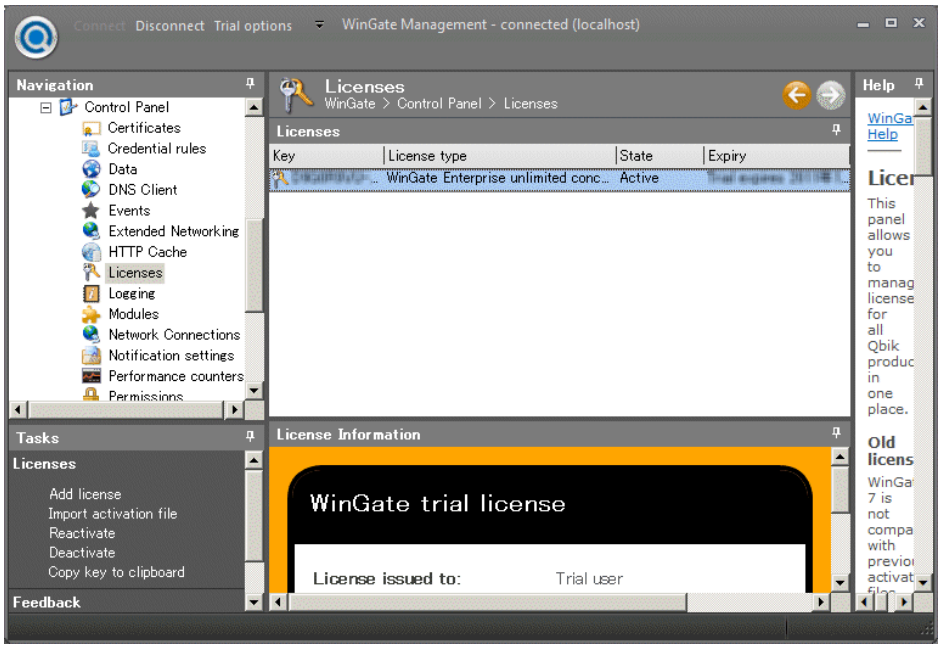
※WinGate の再起動が必要となります。再起動中は WinGate がご利用いただけなくなります。

アップグレード保証、および Kaspersky AntiVirus for WinGate の購読期限を更新いただきました後、更新を適用いただくには、ライセンスキーの再アクティベート（Reactivate）を実施いただく必要があります。（オンライン アクティベーションをご利用いただくことをお勧めいたします。）

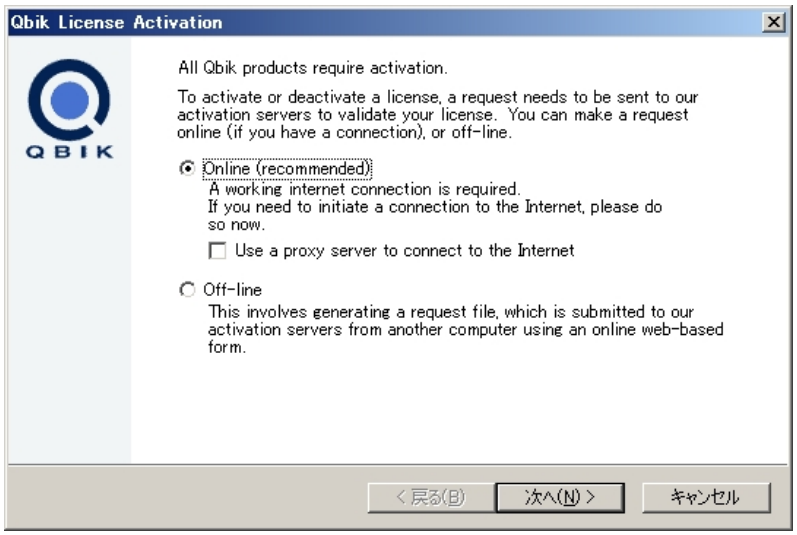
Reactivate は、WinGate Management 内の Licensing より実施いただくことができます。

以下はオンラインでのリアクティベート手順となります。

1. Licensing 画面で Reactivate を実施するライセンスを選択いただき、Reactivate をクリックしてください。

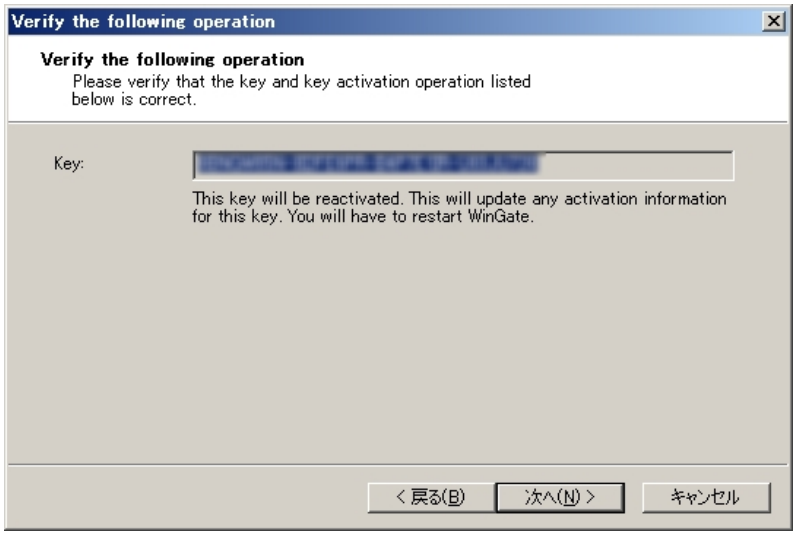


2. Qbik License Activation ダイアログが表示されます。

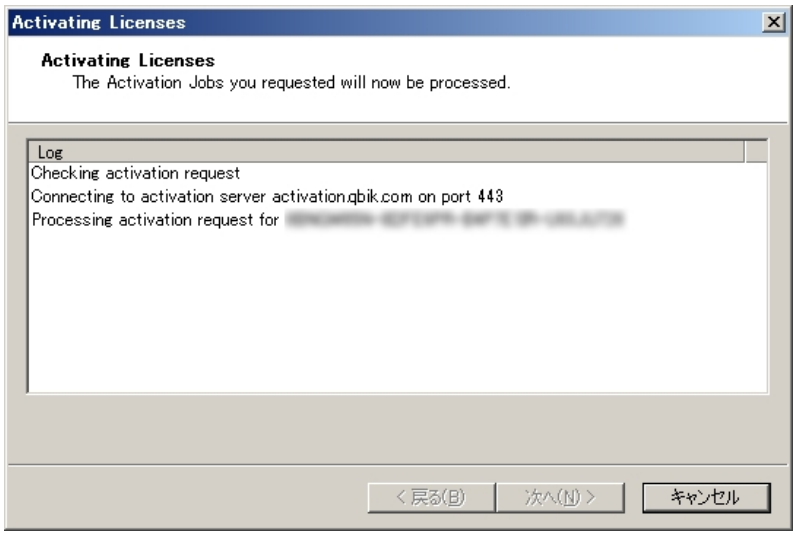


次へをクリックします。

3. ライセンスキー情報が表示され、Reactivate を行うことを確認する内容が表示されますので、キー情報などに問題がない場合「次へ」をクリックします。



4. オンラインでのアクティベーションが開始されます。



Reactivate が成功すると Log 内に Successful が表示されます。

Error が表示された場合には、WinGate マシンのインターネット接続をご確認ください。インターネット接続に問題がなく、エラーが表示される場合、弊社までご連絡ください。

5. 完了ボタンをクリックして Reactivate を終了します。

Reactivate 完了後は、WinGate の再起動が必要となります。

「はい」ボタンをクリックして、WinGate の再起動を行ってください。

以上で、Reactivate は終了となります。

WinGate Management の Licensing より有効期限情報が更新された日付となっているかをご確認ください。

お問い合わせに関して

弊社での WinGate の技術サポートは、電子メールによる受付のみとなっております。
また、技術サポートは、WinGate に付属しておりますアップグレード保証の期限内で提供されます。
アップグレード保証は、開発元でのライセンス発行日から起算し 1 年間となります。保証期間内のお客様は、弊社サポート条件によりサポートをご提供させていただきます。
その他、WinGate の技術的な内容、最新版情報などに関しても、弊社 WinGate Web サイトをご参照ください。

最新バージョンの WinGate は、機能修正や機能追加を含みます。アップグレード保証期間内の場合、最新バージョンへのアップグレードにより問題を解決できる場合もございます。お問い合わせをいただきます前に、最新バージョンへのアップグレードについてもご検討ください。最新バージョンでの修正内容は、WinGate Web サイト、リリースノートにて公開しております。

お問い合わせをいただきます場合、以下の内容をお送りくださいますようお願い申し上げます。
お客様情報を確認できない場合、サポートを承ることができない場合がございますことをご了承ください。

- 会社名、お名前、ご連絡先（メールアドレス、お電話番号）**（必須）**
- ご購入日、ご購入店名
- ライセンス登録名、または、ライセンスキー情報**（必須）**
- ご利用いただいております WinGate の種類、および詳細なバージョン情報（8.2.5 など）**（必須）**
- WinGate をご利用いただいております OS
- WinGate の構成内容、ログ情報（お問い合わせに関連したログ情報が記録されている場合）
- お問い合わせ内容（できるだけ詳細にご記載ください。）
- WinGate インストールディレクトリ内に DMP ファイルが生成されている場合、現象発生時の DMP ファイル

お問い合わせをいただく内容によっては、弊社よりご連絡をさせていただく場合がございます。必ずご連絡先の電話番号をお書き添えください。

※ライセンス登録名・ライセンスキー情報を確認できない場合、ご回答をさせていただくことができない場合がございますことをご了承ください。
※最新バージョンへアップグレードいただけない場合、サポートをご提供できない場合がございますことをご了承ください。
※ご回答までに2～3営業日ほどお時間をいただきますことをご了承ください。
※ご回答いたしました内容に基づき直接的、間接的に発生した損害については弊社では一切責任を負いませんのでご了承ください。
※お問い合わせをいただきました内容の解決をお約束するものではございません。
※お送りをいただきました電子メールに含まれます情報は、弊社個人情報の取り扱いに関するポリシーに基づき適切に取り扱いいたします。

お問い合わせ先：
〒252-0324 神奈川県相模原市南区相武台 1-24-6-2F
テクノブレスト株式会社
TEL： 046-259-1458（販売に関するお問い合わせ） FAX： 046-259-1459
電子メール：wg_support@technoblest.com（技術サポート）、sales@technoblest.com（販売に関して）
お問い合わせ受付時間：月曜日～金曜日 10:00 ～12:00、13:00 ～17:00（祝祭日など弊社の非営業日を除きます）
詳細なサポート条件、営業日などの情報につきましては、弊社 WinGate Web サイト、および弊社 Web サイトをご参照ください。
WinGate Web サイト： http://www.wingate.jp/
テクノブレスト株式会社 Web サイト： http://www.technoblest.com/

2014 年 7 月作成

2015 年 1 月 14 日　コピーライト表記の変更、アップグレード保証更新方法の追加、その他追加、修正
2014 年 10 月 24 日　トラブルシューティングの項目を追加
2014 年 8 月 20 日　代表的なインターフェースに簡単な解説を追加、その他一部内容の修正
2014 年 8 月 6 日　試用版グレードの変更方法を修正
2014 年 7 月 23 日　重複項目（アクティベーション、バックアップ）を修正
2014 年 7 月 23 日　システム必要条件を一部変更

テクノブレスト株式会社

TechnoBlest

※本書の内容は全ての動作を保証するものではありません。また、本書を使用して発生いたしました問題に関しましては、弊社は一切の責任を負いません。内容は予告なしに変更される場合がございます。本書の内容を変更、転載する事はできません。テクノブレスト株式会社の許諾なく、本ガイドに含まれる情報を使用または第三者に開示しないものとします。ガイドをご覧いただきますお客様はこの内容に同意いただいたものとなります。著作権はテクノブレスト株式会社にあります。